

明治学院広報

2022年度事業報告書



横浜キャンパス チャペル

学校法人 明治学院

2022年度を振り返って

学校法人 明治学院
理事長 山崎 雅男

2019年度の終わり頃から新型コロナウイルス感染症が世界的に拡大し、日本でも2020年度～2022年度の3年間は第8波に亘る流行が続き、緊急事態宣言とまん延防止等重点措置が断続的に発出されて社会活動が大きく変化せざるを得なくなりました。明治学院も例外ではなく、授業の形態、国際交流や課外活動のあり方等に大きな影響をうけ、その間は教職員が積極的に対面授業とオンライン遠隔授業の活用等を進めました。現在はコロナ感染症への不安が和らぎ、授業や課外活動を全面的に対面に戻し教育水準の維持・向上に努めています。

明治学院は遡ること1863年（江戸時代末期の文久3年）に米国人宣教医師ヘボン博士が横浜の自宅に開設したヘボン塾を源流とする、わが国の私立学校の中でも最も長い歴史を有する学校の一つとして2022年には創立159周年を迎えました。創立以来のキリスト教に基づく人格教育を永く堅持し続け、現在では1中学校、2高校、1大学（6学部16学科・7研究科12専攻）から成る総合的な学園に発展し、2022年度には14,108名（2022年5月1日現在）を数える生徒・学生を擁し一層の教育・研究の向上に努めてまいりました。

2022年度の学院の歩みを振り返ってみますと、コロナ禍にあっても、明治学院の教育・研究に対する社会からの期待が確実に高まっていることを感じます。中でも2022年度に行われた事業について幾つの特筆すべきことがありました。

第一点は、明治学院に流れる教育理念を確認・発展させるため、「明治学院教育ビジョン」に基づいて中学・高校・大学の教職員からなる5つの推進チームが中期計画（2020年度～2024年度）での行動目標を設定したうえで、可能な限りの具体的取り組みに向かって活動してまいりました。

第二点は、コロナ禍にあっても学院としての「年間主題聖句」を掲げ、それぞれの学校においてキリスト教の礼拝を毎日守ってきました。

第三点は、大学では今後の情報化社会を担える人材を育成するため、理系の新学部「情報数理学部」の設置（2024年4月開設予定）が進められており、併せて「情報科学融合領域センター」を設置し、明治学院大学の理念のもと、次世代の技術を用いた人間中心の未来社会の実現に取り組むことになりました。

第四点は、高校の新校舎が2022年7月末に竣工し、2学期から新たな教育環境で授業を開始したことです。ラーニングセンター内に新設された国際交流ラウンジの活用等が期待できるようになりました。

第五点は、私立学校の環境の厳しい中で2022年度に行われた大学入学試験では志願者からの評価が得られ、志願者数は前年度比119.8%となり入学定員を充足することができました。また中学、高校においても一定の受験者が確保でき、特に明治学院高校は前年度比122.9%の応募者がありました。

これらの事業を積極的に進めてまいりましたが、財政面では2022年度の基本金組入前当年度収支差額（正味財産の増加）は予算を大きく上回ることができました。なお各学校における具体的な事業内容については、「2022年度事業報告書」をご高覧賜れば幸いです。

報告の締め括りにあたり、2022年度中にいただきました学外の方々からのご寄付（特に「大学チャレンジ奨学金募金」と「高校新校舎建築募金」）ご支援と、教職員の皆様の熱意あふれるご尽力に深く感謝申し上げますとともに、これからも引き続き絶大なご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

目 次

第1章 学校法人明治学院の概要

1. 明治学院の建学の精神と沿革	1
2. 設置する学校の学部学科名・開設年度・入学定員・ 入学者数・収容定員・現員	3
3. 設置する学校の所在地・キャンパス面積・校舎面積	4
4. 学生・生徒等納付金	5
5. 設置する学校の役員・評議員・教職員数	7

第2章 2022年度事業の概要

1. 法人	
(1) 事業計画	9
(2) 事業計画の進捗状況	9
2. 明治学院大学	
(1) 事業計画	15
(2) 事業計画の進捗状況	15
(3) 教育研究の概要	19
3. 明治学院高等学校	
(1) 事業計画	21
(2) 事業計画の進捗状況	21
4. 明治学院中学・東村山高等学校	
(1) 事業計画	28
(2) 事業計画の進捗状況	28

第3章 2022年度財務の概要と経年比較（2018年度～2022年度）

1. 財産目録	36
2. 貸借対照表	37
3. 資金収支計算書	38
4. 活動区分資金収支計算書	39
5. 事業活動収支計算書	40
6. 財務比率検証	41
7. 監事による監査報告書	42

第1章 学校法人明治学院の概要

1. 明治学院の建学の精神と沿革

(1) 明治学院の建学の精神

学校法人明治学院の寄附行為には、「この法人は、教育基本法および学校教育法に従い、福音主義のキリスト教に基づいて、教育事業を経営することを目的とする」（第3条第1項）と定められている。この法人の起源は、1863(文久3)年に米国人宣教医師ヘボン博士の横浜の住居に開設された「ヘボン塾」にあり、今日の1中学校、2高校、1大学（6学部16学科・7研究科12専攻）を擁する総合的な学園にまで発展してきた159年の歩みを一貫して、「キリスト教に基づく人格教育」という建学の精神を堅持しつつ、わが国教育界に独自の寄与をしている。

(2) 明治学院の沿革

(年) (年)

1859	安政6	・10月 J.C. ヘボン博士神奈川到着、成仏寺に住まう
1863	文久3	・ヘボン博士横浜で英学塾を開設（ヘボン塾）
1877	明治10	・米国長老教会などの三ミッションは一致合同して東京一致神学校を創立
1880	明治13	・4月 ヘボン塾は築地明石町7番に移転し築地大学校と改称、J.C. パラ校長となる
1881	明治14	・横浜に先志学校（M.N. ワイコフ校長）を開く
1883	明治16	・築地大学校（J.C. パラ校長）と先志学校（M.N. ワイコフ校長）は合併して東京一致英和学校となる
1886	明治19	・4月 東京一致神学校・東京一致英和学校・同予備校の三校合併案成る ・6月 明治学院の名称決定 ・白金（現在地）に校地購入
1887	明治20	・1月 明治学院設置認可 ・校地を白金に移す
1889	明治22	・10月 ヘボン博士、明治学院初代総理に、井深梶之助副総理に就任
1890	明治23	・5月 インブリー事件（明治学院と一高との野球試合の際の事件）起こる
1891	明治24	・11月 井深梶之助第2代総理に就任
1898	明治31	・6月 普通学部を尋常中学部とする
1899	明治32	・8月 文部省訓令第12号が公布され学校内の宗教教育・儀式が禁止された。学院は臨時理事会を開き、宗教教育を維持するため他の基督教主義学校と共に文部省に交渉
1907	明治40	・島崎藤村作詞による校歌を制定（作曲 前田久八）
1911	明治44	・9月 ヘボン博士米国イースト・オレンジにて逝去
1916	大正5	・3月 ヴォーリズ建築設計事務所設計による新礼拝堂献堂式挙行
1925	大正14	・4月 田川大吉郎第3代総理に就任
1930	昭和5	・神学部は学院から分離し、東京神学社と合併して日本神学校設立
1935	昭和10	・7月 総理を学院長と改称
1937	昭和12	・11月 島崎藤村自筆校歌碑建設
1949	昭和24	・明治学院大学設置認可 ・4月 大学文経学部開校
1951	昭和26	・3月 財団法人から学校法人に組織変更認可
1952	昭和27	・4月 中高分離 ・大学は文学部、経済学部の二学部に分離
1955	昭和30	・大学院文学研究科英文学専攻修士課程設置 ・東村山に校地購入
1962	昭和37	・4月 大学院文学研究科英文学専攻博士課程開設
1963	昭和38	・4月 東村山高等学校開校
1965	昭和40	・3月 中学講堂落成 ・4月 社会学部独立
1966	昭和41	・2月 白金礼拝堂にパイプオルガン設置 ・4月 中学、東村山に移転。大学法学部設置
1968	昭和43	・10月 大学で立看板撤去破壊事件起こる（学園紛争の発端）
1977	昭和52	・『明治学院百年史』を刊行
1985	昭和60	・横浜校舎開校
1986	昭和61	・国際学部／国際学科設置
1989	平成1	・5月 テネシー明治学院高等部開校
1990	平成2	・文学部／芸術学科・心理学科、法学部／政治学科設置
1991	平成3	・高校、中学・東村山高校が男女共学に移行
1996	平成8	・経済学部／経営学科（商学科を改称）設置
1998	平成10	・1月 株式会社明治学院サービス設立 ・中学・東村山高校の新校舎完成
2000	平成12	・法学部／消費情報環境法学科設置
2002	平成14	・大学教養教育センター発足
2004	平成16	・心理学部／心理学科、法科大学院設置
2006	平成18	・経済学部／国際経営学科設置
2007	平成19	・芝浦工業大学と明治学院大学との交流・連携事業が開始 ・3月 テネシー明治学院高等部閉校
2008	平成20	・2月 礼拝堂の耐震補強と復元・改修工事が完成
2009	平成21	・3月 大学高輪校舎の献堂式 ・7月「日本近代音楽館」からの資料寄贈に関する合意書取り交し ・10月 新パイプオルガン奉献式（白金礼拝堂）

2010	平成22	・心理学部／教育発達学科設置
2011	平成23	・国際学部／国際キャリア学科設置 ・5月 明治学院大学図書館附属日本近代音楽館開館
2012	平成24	・3月 大学13号館の献堂式
2013	平成25	・12月 創立150周年記念礼拝 ・『明治学院百五十年史』を刊行
2015	平成27	・4月 大学院「法と経営学研究科」設置 ・12月 横浜校舎開校30周年記念式典
2016	平成28	・3月 「明治学院教育ビジョン」策定 ・4月 大学院心理学研究科教育発達学専攻修士課程設置 ・11月 礼拝堂献堂100周年記念音楽礼拝
2017	平成29	・3月 法科大学院廃止
2018	平成30	・法学部／グローバル法学科設置
2022	令和4	・明治学院高等学校の新校舎完成

2. 設置する学校の学部学科名・開設年度・入学定員・入学者数・収容定員・現員

(2022年5月1日現在)

学校名(所在地) 明治学院大学 (東京都港区白金台)	大学院 学部	文学研究科 経済学研究科 社会学研究科 法学研究科 心理学研究科 法と経営学研究科 文学部・経済学部・社会学部・法学部・心理学部の3・4年次 課程
(神奈川県横浜市戸塚区上倉田町)	大学院 学部	国際学研究科 文学部・経済学部・社会学部・法学部・心理学部の1・2年次 課程 国際学部

専攻・学部・学科等名	開設年度	入学定員	入学者数	収容定員	現員
大学院					
文学研究科		38	10	86	42
英文学専攻 博士(前期)課程	1955	10	5	20	9
英文学専攻 博士(後期)課程	1962	2	0	6	1
フランス文学専攻 博士(前期)課程	2000	8	1	16	5
フランス文学専攻 博士(後期)課程	2003	3	1	9	3
芸術学専攻 博士(前期)課程	2001	10	3	20	14
芸術学専攻 博士(後期)課程	2003	5	0	15	10
経済学研究科		16	1	38	6
経済学専攻 博士(前期)課程	1960	10	1	20	3
経済学専攻 博士(後期)課程	1989	3	0	9	1
経営学専攻 博士(後期)課程	1989	3	0	9	2
社会学研究科		25	6	55	20
社会学専攻 博士(前期)課程	1967	10	2	20	5
社会学専攻 博士(後期)課程	2006	2	0	6	1
社会福祉学専攻 博士(前期)課程	1960	10	4	20	12
社会福祉学専攻 博士(後期)課程	2006	3	0	9	2
法学研究科		5	0	15	2
法律学専攻 博士(後期)課程	1972	5	0	15	2
国際学研究科		12	3	26	8
国際学専攻 博士(前期)課程	1990	10	3	20	7
国際学専攻 博士(後期)課程	1992	2	0	6	1
心理学研究科		34	19	72	40
心理学専攻 博士(前期)課程	2004	20	13	40	30
心理学専攻 博士(後期)課程	2007	4	1	12	4
教育発達学専攻 修士課程	2016	10	5	20	6
法と経営学研究科		20	15	40	31
法と経営学専攻 修士課程	2015	20	15	40	31
大 学 院 計		150	54	332	149

専攻・学部・学科等名	開設年度	入学定員	入学者数	収容定員	現 員
学 部					
文学部	1949	505	532	2,020	2,064
英文学科	1949	225	227	900	906
フランス文学科	1965	115	118	460	470
芸術学科	1990	165	187	660	688
経済学部	1949	690	712	2,760	2,667
経済学科	1949	325	335	1,300	1,255
経営学科	1952	210	221	840	826
国際経営学科	2006	155	156	620	586
社会学部	1949	490	528	1,960	1,997
社会学科	1949	245	273	1,040	1,017
社会福祉学科	1965	245	255	920	980
法学部	1966	645	665	2,580	2,586
法律学科	1966	200	198	800	796
消費情報環境法学科	2000	225	233	900	906
政治学科	1990	155	160	620	621
グローバル法学科	2018	65	74	260	263
国際学部	1986	300	301	1,200	1,235
国際学科	1986	245	257	980	995
国際キャリア学科	2011	55	44	220	240
心理学部	2004	320	326	1,280	1,276
心理学科	2004	175	181	700	711
教育発達学科	2010	145	145	580	565
学 部 計		2,950	3,064	11,800	11,825

学 校 名		開設年度	入学定員	入学者数	収容定員	現 員
明治学院高等学校 (東京都港区白金台)	全日制課程	1948	333	328	1,000	939
明治学院東村山高等学校 (東京都東村山市富士見町)	全日制課程	1963	240	259	720	768
明治学院中学校 (東京都東村山市富士見町)		1947	140	144	420	427
合 計			713	731	2,140	2,134

3. 設置する学校の所在地・キャンパス面積・校舎面積

(単位：m²)

	所 在 地	使用部門	キャンパス面積	校舎面積
白金キャンパス	東京都港区白金台	大学院・大学・高校・法人	39,530	76,857
横浜キャンパス	神奈川県横浜市戸塚区上倉田町	大学院・大学	201,576	51,403
東村山キャンパス	東京都東村山市富士見町	中学・東村山高校	56,200	16,700
戸塚グラウンド	神奈川県横浜市戸塚区俣野町	大学院・大学	48,872	2,039
合 計			346,178	146,999

(2023年3月31日現在)

4. 学生・生徒等納付金

<大学学部 (年額)>

(単位：円)

学 科	1年次	2年次	3年次	4年次
	2022年度生	2021年度生	2020年度生	2019年度生
英文	1,272,600	1,056,100	1,056,100	1,096,100
フランス文	1,272,800	1,056,300	1,056,300	1,096,300
芸術	1,358,600	1,142,100	1,142,100	1,182,100
経済、経営	1,266,720	1,056,100	1,056,100	1,096,100
国際経営	1,486,720	1,079,720	1,076,100	1,116,100
社会、社会福祉	1,274,100	1,057,600	1,057,600	1,097,600
法律、消費情報環境法	1,285,600	1,069,100	1,069,100	1,109,100
グローバル法	1,502,400	1,099,100	1,099,100	1,139,100
政治	1,275,600	1,059,100	1,059,100	1,099,100
国際	1,320,400	1,113,100	1,113,100	1,149,100
国際キャリア	1,485,400	1,278,100	1,278,100	1,314,100
心理	1,344,600	1,128,100	1,128,100	1,168,100
教育発達	1,424,600	1,198,100	1,198,100	1,238,100

* 1年次は入学金200,000円を含む。

* 4年次は校友会終身会費40,000円を含む。

<大学院 (年額)>

(単位：円)

博士前期課程・修士課程	1年次		2年次	3年次
	2022年度生		2021年度生	2020年度生
	本学卒・院修	他大卒		
英文学、芸術学、経済学、法と経営学	647,750	797,750	686,000	-
フランス文学	647,950	797,950	686,200	-
社会学、社会福祉学	649,250	799,250	687,500	-
社会福祉学 (3年制コース)	480,100	630,100	477,500	517,500
国際学	650,750	800,750	689,000	-
心理学 (心理学コース)	729,750	879,750	768,000	-
心理学 (臨床心理学コース)	799,750	949,750	838,000	-
教育発達学	729,750	879,750	768,000	-

(単位：円)

博士後期課程	1年次		2年次	3年次
	2022年度生		2021年度生	2020年度生
	本学卒・院修	他大卒		
英文学、芸術学、経済学、経営学	648,600	798,600	646,000	686,000
フランス文学	648,800	798,800	646,200	686,200
社会学、社会福祉学	650,100	800,100	647,500	687,500
法律学	651,600	801,600	649,000	689,000
国際学	651,600	801,600	649,000	689,000
心理学	650,600	800,600	648,000	688,000

* 1年次の金額には他大卒の学生のみ入学金150,000円を含む。

(本学学部、本学博士前期課程・修士課程、専門職学位課程出身者の場合は入学金が免除)

* 最終年次に校友会終身会費40,000円を含む。(本学卒・本院卒で既に納入済の者は不要)

<高校・中学校（年額）>

（単位：円）

	1年次		2年次	3年次	
	移行生	他校出身		移行生	他校出身
明治学院高等学校	－	1,009,267	666,183	－	694,550
明治学院東村山高等学校	1,112,000	1,132,000	872,000	808,000	813,000
明治学院中学校	－	1,168,000	838,000	－	884,000

* 明治学院高等学校の1年次は入学金250,000円を含む。

* 明治学院東村山高等学校の1年次は入学金280,000円（移行生は260,000円）を含む。

* 明治学院中学校の1年次は入学金280,000円を含む。

5. 設置する学校の役員・評議員・教職員数

(1) 役員 理事定員22～24名(現員23名) 監事定員2～4名(現員2名)

(2023年3月31日現在)

役職	氏名	就任年月日	主な現職等	非業務執行理事
理事長	山崎 雅男	2020.6.5	理事2020.6.1 就任	
理事	鷗殿 博喜	2022.4.1	学院長	
理事	村田 玲音	2020.4.1	明治学院大学学長	
理事	永野 茂洋	2022.4.1	明治学院大学副学長	
理事	中野 聡子	2022.4.1	明治学院大学副学長	
理事	今尾 真	2022.4.12	明治学院大学法学部長	
理事	富山 英俊	2022.4.12	明治学院大学文学部長	
理事	徳永 望	2022.4.1	明治学院高等学校校長	
理事	伊藤 節子	2021.4.1	明治学院中学校・東村山高等学校校長	
理事	櫛田 健一	2021.4.1	法人事務局長	
理事	杉村 佐壽	2020.6.1	総務担当理事	
理事	大海 龍生	2020.6.1	財務理事	
理事	和田 道雄	2020.6.10		
理事	塚本 京子	2020.6.1		
理事	大江 浩	2020.6.10		○
理事	高松 牧人	2020.6.1		○
理事	三宅 宣幸	2020.6.1		○
理事	金子 宏美	2020.11.1		○
理事	小滝 秀明	2020.6.1		○
理事	小檜山 ルイ	2020.6.1		○
理事	塚越 敏夫	2020.6.1		○
理事	西田 一郎	2020.6.1		○
理事	西原 良信	2020.6.1		○
監事	辻 泰一郎	2020.6.10		
監事	真崎 修	2022.6.1		

* 非業務執行理事および監事については、各人と責任限定契約を締結

* 各役員 of 最低責任限度額に適應する役員賠償責任保険(保険期間1年間)に加入

(2) 評議員 定員45～49名(現員48名)

(2023年3月31日現在)

氏名	氏名	氏名
青山 尚史	齊藤 栄一	西田 一郎
天野 愛子	坂口 緑	西原 良信
李 省展	芝間 衛	芳賀 繁浩
飯 謙	鈴木 俊彦	羽田 隆
飯田 浩司	孫 永律	原田 健一
飯田 雅彦	高須賀 伸成	廣田 光司
井上 隆司	高辻 智長	藤掛 順一
植木 献	高松 牧人	松岡 良樹
大江 浩	高良 研一	松田 真二
大塩 光	竹越 浩一	宮内 隆
大西 哲也	田丸 修	三宅 宣幸
勝俣 幸洋	塚越 敏夫	森 あおい
君島 庸子	辻 直人	森 千草
黒米 忠一	富岡 美夫	森内 美夫
小滝 秀明	長岡 宣好	吉村 哲也
小林 敏	中野 薫	和田 道雄

(50音順で記載)

(3) 教職員

		法人	大学	高等学校	東村山高等学校	中学校	合計
常 勤	教員	0	288	0	0	0	288
	教諭	0	0	47	36	20	103
	準宣教師	0	0	1	0	0	1
	常勤講師	0	0	2	0	1	3
	助手	0	11	0	0	0	11
	副手	0	1	0	0	0	1
	研究所実験助手	0	1	0	0	0	1
	職員	8	167	6	6	1	188
	学院牧師	1	0	0	0	0	1
	音楽主任者	1	0	0	0	0	1
	主任カウンセラー	0	2	0	0	0	2
	ボランティアコーディネーター	0	2	0	0	0	2
	主任教学補佐	0	6	0	0	0	6
	教学補佐	0	31	0	0	0	31
	特別嘱託職員	1	11	1	1	0	14
	専任保健師	0	4	0	0	0	4
	障がい学生支援コーディネーター	0	4	0	0	0	4
	宗教部主任職員	0	1	0	0	0	1
	宗教部常勤職員	0	1	0	0	0	1
	特別契約職員	3	10	0	0	0	13
常勤小計	14	540	57	43	22	676	
非 常 勤	客員教授・特命教授・非常勤講師	0	852	44	25	8	929
	客員研究員	0	2	0	0	0	2
	非常勤嘱託職員	0	31	0	0	0	31
	特別ティーチング・アシスタント	0	37	0	0	0	37
	ティーチング・アシスタント	0	18	0	0	0	18
	心理臨床センターカウンセラー	0	1	0	0	0	1
	心理臨床センターアシスタントカウンセラー	0	4	0	0	0	4
	スクールカウンセラー	0	0	1	1	1	3
	ソーシャルワーカー	0	1	0	0	0	1
	研究調査員	0	1	0	0	0	1
	法人特任研究員	2	0	0	0	0	2
	非常勤職員	1	94	10	3	2	110
非常勤小計	3	1,041	55	29	11	1,139	
総 合 計	17	1,581	112	72	33	1,815	

(2022年5月1日現在)

第2章 2022年度事業の概要

1. 法人

(1) 事業計画

① 明治学院の教育

「明治学院一貫教育宣言」の理念に基づき、「明治学院教育ビジョン」が策定された。学院長を中心としたマネジメント体制を構築、中・高・大の連絡・連携を強化して、特色のある明治学院の教育を進めていく。

② キリスト教活動

中・高・大を包括した全学院にまたがるキリスト教教育諸活動を推進する。

③ 中・高・大学および学校法人による積極的な募金活動の推進

明治学院大学チャレンジ奨学金募金を推進するため、目標額600百万円（募集期間2015年10月～2024年3月）を目指して募金活動に注力する。また、高校校舎改築のための募金活動にも注力する。

④ 学校法人の自律的なガバナンスの改善・強化

私立学校法の改正に伴い、役員の職務および責任の明確化を図り、情報公開の充実に努める等自律的なガバナンスの改善・強化を図る。また、監事の理事・理事会への牽制機能が強化されたことに伴うガバナンスの改善を進める。

⑤ 明治学院の財政基盤の強化および奨学金給付の増加

学院の中長期財政計画に基づき一層の財政強化を図る。収入源の安定的確保に向けた諸方策を推進するとともに、支出の抑制と効率的配分に向けた施策を実施し、財政の健全化を推進する。コロナ禍が続く2022年度も、学業支援のための奨学金の支給を継続する。

⑥ キャンパスの有効活用と施設・設備の整備

白金キャンパスは大学と高校が連携した整備計画を行う。2020年10月に着工した高校校舎改築については、2022年8月の竣工に向けて建築工事が順調に進むよう進捗管理に努める。横浜キャンパスはキャンパスコンセプトに基づき横浜キャンパス整備計画を更に推進する。東村山キャンパスは中学棟、講堂棟、チャペルの整備計画を進める。

⑦ 危機管理体制の構築

各学校との防災連携、備蓄品の確保、行政との連携、非常安否確認システム登録の推進に取り組む。大学では中期計画に基づき非構造部材耐震対策工事（天井落下防止措置）を実施するとともに、地震等に備えて、事業継続計画を策定する。また、新型コロナウイルス感染症対策として、ICT教育設備の充実に努める。

⑧ 文化活動

伝統ある教育的文化遺産（礼拝堂、記念館、インブリー館、ライシャワー館）の保全と活用を進める。学院の貴重な資料を学生・生徒の教育、教員の研究、職員の研修、学外の教育・研究等に供し、「知の楽しみを分かち合う」博物館文化の創造を目指して、明治学院歴史資料館「ミュージアム・ビジョン」を策定した。これに基づき、デジタルアーカイブズを構築し、2022年1月に歴史資料を公開した。2022年度には、さらに学生・生徒、教職員、同窓生等が参加・協力する共創的事業を展開する。

⑨ 株式会社明治学院サービスとの連携強化

明治学院の全額出資会社である株式会社明治学院サービス（1997年度に設立され25年目）は、学院、各学校と教育・研究活動に関する密接な連携を推進していく。コロナ禍にあっても可能な限りの施設貸出や結婚式の運営に注力する。

(2) 事業計画の進捗状況

① 明治学院の教育

(a) 2011年3月に「明治学院一貫教育宣言」を発信し、中学校、高校、大学を目指す生徒像、学生像を明らかにしつつ、明治学院に流れる共通の理念を確認した。2015年度には宣言の理念に基づき、「明治学院教育ビジョン」を策定し、その具体化に取り組んできた。

この「明治学院教育ビジョン」に基づき、具体的な計画と実行を目指す中高大の教職員からなる5つのチームを結成し、第四期（2022年～2023年度）の活動を実施した。

< 5つのチームの主な活動報告 >

1) 中高大テキスト作成プロジェクトチーム

〔目的〕 共通テキストの作成と授業実践の研究、キリスト教教育の理念と実践の再構築。

〔計画〕 『ヤバイぜ! 聖書(バイブル)』(2019年4月完成)の中学・高校・大学での使用とその検証。

- [進捗] 担当者変更に伴い、意見交換または現状についての状況共有のため、複数回の委員会を実施。テキスト使用のメリット、デメリットを評価するための生徒・学生へのアンケート調査の準備等を進めた。また、テキスト改訂についても検討を進めた。
- 2) キリスト教教育教職員研修プロジェクトチーム
- [目的] キリスト教教育に関する教職員研修プログラムの企画・実行。
- [計画] 「キリスト教ふれあい年」、「リトリート」の実施。
- [進捗] ふれあい年対象者（2022年度は87名）に招待状、クリスマスカード等を配付。所定の参加をした対象者にはノベルティ（明治学院オリジナルブロックメモ）を渡した。
- 3) 国際交流（留学）ワーキングチーム
- [目的] 国際交流（留学）に関する高大接続の企画・実行。
- [計画] 「高校生対象語学講座（TOEFL IBT）」、「留学を経験した学生による留学ガイダンス」「留学生との国際交流イベント」「大学OB・OGによるオンライン講演会」
- [進捗] 語学講座は、東村山高校にて対面実施。明治学院高校の授業（総合探究「韓国コース」）に国際学科の正規留學生が参加。オンライン講演会は6月18日（土）、2月4日（土）の2回開催。両日とも明治学院高校生・東村山高校生より11人の参加があり、早い時期での留学への動機づけの機会を提供できた。
- 4) ボランティア教育プロジェクトチーム
- [目的] ボランティアの理念と課題共有、発達段階に合ったボランティアの研究開発と実践。
- [計画] 「パヤオプロジェクト」（タイ北部バンコク YMCA パヤオセンターへの訪問と交流）の実施。
- [進捗] 中高大における海外渡航プログラムの実施状況に鑑み、パヤオ訪問は中止とした。それに伴い、パヤオセンターとのオンライン交流会を実施。また、大学ボランティアセンターのプログラム「1Day for Others」や「ボランティアカフェ」等を中高へも拡大するかたちで実施するなど、中高生の参加を積極的に働きかけた。
- 5) キャリア支援プロジェクトチーム
- [目的] キャリア教育の課題共有と共有プログラムの企画・実行。
- [計画] 発達段階に応じた各校の取り組みについて継続し、その成果について情報共有する。
- [進捗] キャリアデザイン講演会について、東村山高校4回、明治学院中学校6回実施。明治学院高校では、進路や職業選択のための適性検査や卒業生講演会などを実施した。

<その他の一貫教育に関連する活動報告>

- 1) 横浜キャンパスプロジェクト「J.C.バラ・プログラム」
系列校の入学予定者を対象とした入学前教育プログラムを実施。明治学院高校121名、東村山高校128名、計249名の入学予定者が参加。大学生スタッフ53名による様々な企画が行われ、アンケートでは高い満足度が報告された。
- 2) 系列校特別推薦入試
明治学院の一貫教育の成果を高めるため、前年度に引き続き、大学がS推薦・チャレンジ推薦を含めた系列校特別推薦入試を実施した。その結果、高校126名、東村山高校129名、計255名が明治学院大学に進学した。詳細は下記の通り。

年度\推薦	S推薦 大学入学者	A推薦	B推薦	チャレンジ 推薦	計
2018年度高校	1	34	96	1	132
2019年度高校	2	31	94	2	129
2020年度高校	4	26	105	2	137
2021年度高校	3	25	86	5	119
2022年度高校	4	22	96	4	126
2018年度東村山高校	3	24	79	1	107
2019年度東村山高校	4	24	77	2	107
2020年度東村山高校	2	33	85	1	121
2021年度東村山高校	1	38	82	0	121
2022年度東村山高校	1	35	93	0	129

- 3) 東村山高校の授業「アカデミックリテラシー」（明治学院大学への進学希望者対象）について、2019年度より大学入学後の単位として認定されており、制度として継続されている。

- (b) 16～18世紀の工法を現代に再現した明治学院のパイプオルガンを維持管理していくために、年2回の定期保守を実施。外部の専門家を加えたオルガン管理運営委員会を年2回開催した。

② キリスト教活動

(a) 大学チャペルアワーの活性化

明治学院全体にわたり礼拝の充実に努力すること、特に大学チャペルアワーの活性化を図ることを掲げた。2022年度は2年ぶりに年間を通して、対面によるチャペルアワーを実施することができ、クリスマス礼拝、クリスマスツリー点灯式についても事前申込制を取らず開催することができた。また、学生とともに外部の教会を訪ねるキリスト教建築ツアーやキリスト教書・グッズ専門店のポップアップストアを開催するなど、学生がキリスト教に親しむ機会を積極的に提供した。

(b) 年間主題聖句

「学校法人明治学院年間主題聖句」は教職員のほか学生・生徒に対してもキリスト教の教えが伝わるように意識して選定。

2022年度 明治学院 年間主題聖句

「神の国は、見える形では来ない。『ここにある』『あそこにある』と言えるものでもない。実に、神の国はあなたがたの間にあるのだ。」(新約聖書・ルカによる福音書17章20b～21節)

この聖句を多くの教職員や学生・生徒が意識できるように、入職式礼拝や入学式・卒業式等式典での紹介、学院正門掲示板および学院ホームページ等で広く知らせた。

(c) 勤務員キリスト教学校教育セミナー

2022年度は当初、教職員の交流に重点をおき、対面（午前のセッション1は講演会、午後のセッション2は分科会）での開催としていたが、7月下旬段階において新型コロナウイルス感染症の感染者急増状況や増加傾向が続く予測等に鑑み、分科会は中止とし、講演会のみオンラインにて開催することとした。

<勤務員キリスト教学校教育セミナーテーマおよび参加者数>

(敬称略)

年度	テーマ（講師ほか）	参加者数
2018年度	近代日本150年—私たちはどう考えるか（高橋源一郎）	90
2019年度	明治学院 私たちの新しい歩み方（内田樹）	85
2020年度	コロナ禍のため中止	—
2021年度	キリスト教学校の未来予想図（西原廉太）	105
2022年度	悲しみのシェアが出来ない時代に（塩谷直也）	90

(d) 日本基督教団東京教区南支区との共催事業

日本基督教団東京教区南支区との「ペンテコステの集い」をオンラインで動画配信した。これは事前に、明治学院礼拝堂において、司式・祈祷を高橋和人牧師（田園調布教会牧師）、説教を北川善也学院牧師、奏楽を長谷川美保学院オルガニストにより収録しておいた動画を配信したもので、300回を超す視聴があった。

(e) クリスマス音楽礼拝

2020年、2021年と感染症拡大防止のため中止していたが、本学院の学生・生徒・勤務員（役員）、出演者の家族を対象に12月22日（木）チャペルにて開催した（事前申込制）。東村山の出演生徒の保護者28名を含め70名強の参加となった。

(f) 勤務員の研修に関する情報提供

キリスト教学校教育同盟の事務職員夏期学校を始め各種研修会・リトリートについて積極的に告知、勤務員セミナーについても学部長会等にて告知案内した。

③ 中・高・大学および学校法人による積極的な募金活動の推進

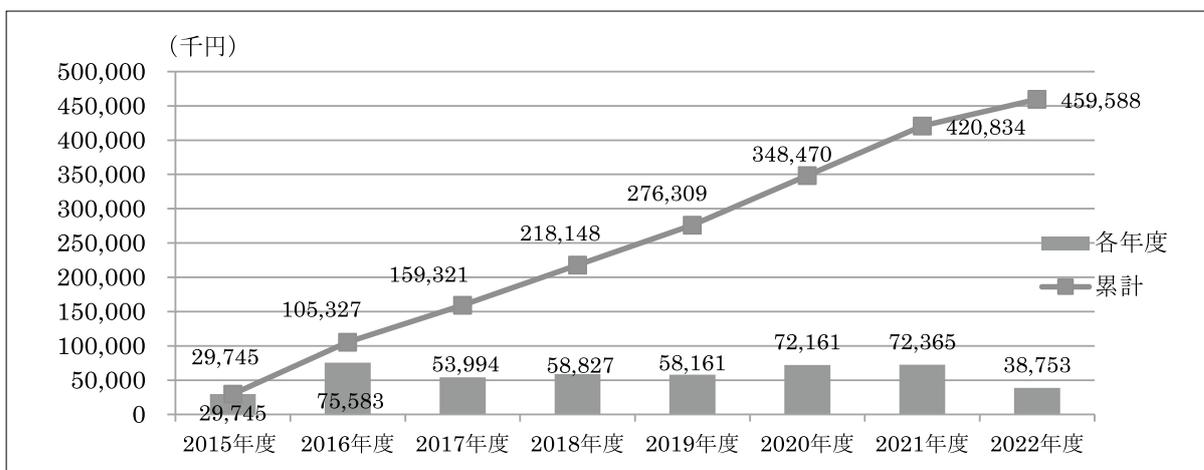
2015年度より開始した「明治学院大学チャレンジ奨学金募金」は、2020年度に第4番目の目的として「新型コロナウイルス感染症対応給付奨学金のため」を追加し、募集期間を2024年3月末まで延長、目標額を600百万円とした（2023年3月末での募金額：459,588千円で目標額600百万円に対して進捗率76.6%）。

2022年度に2回発行した「募金ニュース」（13号、14号）では、この寄付金を元とした4種類の奨学金の受給者数や大学の近況について発信した。また、寄付者の裾野を広げるために「2,000円」と「5,000円」のコンビニ専用定額振込用紙を同封して、継続的・反復的な募金への協力

を引き続き依頼した。その結果、2023年3月末で2,962件の協力が得られた。

なお、「新型コロナウイルス感染症対応給付奨学金のため」は、応募者数もコロナの変化とともに着実に減り、この緊急の奨学金の役割は果たせたとの判断が可能となったため、2022年度で休止した。

<チャレンジ奨学金募金の寄付額推移>



また、2019年度より始まった高等学校の校舎改築事業資金充実のための「明治学院高等学校新校舎建築募金」は2022年7月で終了し、募金額は、961件、44,103,676円（目標比44.1%）となった。

- ・目標額：100百万円
- ・募集期間：2019年4月～2022年7月
- ・用途：校舎改築、仮設校舎建築、本館・体育館の改修、新規設備・備品購入等
- ・募集対象：教職員、法人役員、同窓生、企業・取引先
- ・2023年8月末募金額：44,103,676円（進捗率44.1%）

④ 学校法人の自律的なガバナンスの改善・強化

- (a) 学校法人として以下の事項に重点を置いた自律的なガバナンスの改善、体制強化を図った。
- 1) 今後予定されている私学法の改正に基づき、寄附行為の変更をした。（理事・監事・評議員の任期を1年延長）
 - 2) 学校法人明治学院情報セキュリティ基本方針を公表した。（2022年4月1日）
 - 3) 中期計画（2020～2024年度）について、予算と事業の2022年度の検証を実施した。
 - 4) 日本私立大学連盟私立大学ガバナンス・コードに基づき、遵守状況報告書を再点検した。
- (b) 法人部門と大学執行部との間で定期的に行われている懇談会を継続し、教学と経営の両輪を円滑に駆動させて、教育環境整備を最優先課題として法人運営を行った。
- (c) 会計士監査、監事監査および理事会直轄の監査室の連携を強化し、三様監査の実効ある運用を継続した。特に公的研究費の管理・監査については、重点項目として詳細に実施した。また監事の理事・理事会への牽制機能の強化のもと、緊張感のある理事会運営が行われた。

⑤ 明治学院の財政基盤の強化および奨学金給付の増加

- (a) 「学校法人明治学院中期計画」（2020年度～2024年度）の財政計画を見直し
2022年度～2026年度までの5年間の中期財政計画を見直し、学院財政の健全性が維持できるか、大学の新学部（「情報数理学部」）設置に係る費用が担保できるかを明確にした。
- (b) 第2号および第3号基本金の充実
2022年度において第2号基本金については、大学で理系の新学部・情報数理学部の設立に備えるため500百万円組み入れて、2022年度末において12,500百万円となった。また中学・東村山高校で新中学棟・講堂棟・東村山チャペル建築に備えるため20百万円の組み入れを行い、2022年度末において459百万円となった。
また大学での奨学金を拡充するため、大学第3号基本金に500百万円を組み入れ、2022年度末において11,768百万円となった。

⑥ キャンパスの有効活用と施設・設備の整備

- (a) 法人・大学においては、各種教育改革の変化に対する施設要望の実現化に向けて、迅速に対

応できる体制を引き続き維持した。大学では戸塚グラウンドの人工芝化計画、情報数理学部設置に関わる横浜校地新校舎の建築計画を推進したほか、新しい仕様に基づいた教室AVシステム機器更新を行った。

- (b) 高校においては、新校舎が完成し、新たな環境で教育活動が行われた。
- (c) 東村山キャンパスにおいては、大型工事として、中学棟トイレ改修工事、講堂棟2階天井耐震補強工事等を実施した。

⑦ 危機管理体制の構築

- (a) 学校法人明治学院災害対策総本部と各学校に設置される災害対策本部間の統括調整訓練を引き続き検討した。
- (b) 各学校において、災害時に必要となる基本備蓄品（水、食料の他、災害時必需品）の備蓄を維持し、第一次避難所のほか帰宅困難者受入（白金キャンパスのみ）の際にも活用できるよう備蓄率向上に努めた。
- (c) 「白金高輪駅周辺滞留者対策推進協議会」「戸塚区災害対策連絡会議」など、各学校において、行政との基本連携協定等に基づく、地域の防災・防犯活動に参画した。
- (d) 中期計画で実施している大学の非構造部材耐震対策工事（天井落下防止措置）は、白金キャンパスで予定していたパレットゾーン地下3階の第2、第3アリーナで実施した。
- (e) 自然災害や感染症拡大等に備えて教育と研究の環境を持続していくため、大学において策定した事業継続計画（Business Continuity Plan）を状況に応じて適用し、円滑な運用を図った。
- (f) 新型コロナウイルス感染症対策
 - 1) 各学校の教育事業が安定して運用できるよう ICT 教育設備の更なる充実を図るとともに、学生生徒および教職員への感染防止対策の継続、必要備品（マスク、除菌シート等）の備蓄を行った。
 - 2) 理事会、評議員会の円滑な運用を図るため、今年度も対面とオンライン会議の併用を継続して実施した。併せて会議でペーパーレスシステム（モアノート）を導入したことで、学外から理事会、評議員会に出席する理事・評議員が対面出席者と同様に会議資料を閲覧することが可能になるとともに、さらに会議資料のペーパーレス化も進んだ。

⑧ 文化活動

(a) 歴史資料館

2020年度に策定した「ミュージアム・ビジョン」に基づき、業務形態を学生・生徒、教職員、同窓生との共創的事業モデルへと進化させ、下記活動により、本学院の歴史資料を探求することによる「知の楽しみを分かち合う」博物館文化を創造することに尽力した。

- 1) 「明治学院歴史資料館デジタルアーカイブズ」の充実
目録業務のオンライン化により目録業務の即時性が向上した。
- 2) 企画展示とコンソーシアムとの連携
コロナ禍で閉室していた展示室を6月中旬および12月以降、約2年ぶりに再開室した（7～11月は工事で閉室）。12月より企画展「ガラス乾板に見る明治学院の歴史 明治学院歴史資料館所蔵ガラス乾板の世界」の関連展示「たてももの、歴史と共にある場所。」を開催した。加盟している港区ミュージアムネットワークと連携して、イベントに参加し、展示の広報を行った。
- 3) 組織アーカイブおよび歴史的建造物保全への取り組み
組織アーカイブ（組織の事務や事業活動の諸記録による資料群）と将来の『明治学院二百年史』（仮称）編纂のため、明治学院の新型コロナウイルス禍対応の一次資料収集を開始した。白金キャンパスの歴史的建造物3棟をレーザースキャンした3D点群データを保管し、広報動画を制作した。
- 4) 授業支援による博物館文化の共創
授業における展示室・歴史的建造物見学に協力し、学院の歴史について説明を行った。コロナ禍で学外の実習が困難になった、学芸員資格取得を目指す3名の芸術学科生を受け入れて9月に実習を行い、実習成果展「明治学院校歌と島崎藤村－藤村生誕150周年記念展示－」を展示室で開催した。インブリー館見学や業務補助を通じて、学生の歴史資料館事業への参加を促進した。

(b) オルガン講座

白金キャンパスのオルガン講座について、高校の受講者は高校礼拝・アドヴェント礼拝・高校PTA主催チャペルコンサートで演奏の機会がある。大学の受講生は大学チャペルアワー、クリスマスキャンドルライトサービスにおける奏楽（白金キャンパス）、大学オープンキャンパス、白金祭などで演奏の機会がある。

2022年度白金キャンパスのオルガン講座は、延べ34名（高校生18名、大学生16名）が受講（2021年度30名）、横浜キャンパスのオルガン講座は、大学生23名が受講した。

(c) 文化財3棟紹介動画制作

白金校舎の歴史的建造物3棟の魅力を伝えるショートムービーを制作し、学院のWebサイトに掲載した。各学校でのイベントや授業での上映等、広報・教育活動に活用できるものとなった。

⑨ 株式会社明治学院サービスとの連携強化

(a) 学校法人明治学院の100%の出資会社としての株式会社明治学院サービスに対して、学院が行う教育・研究活動に関して更なる密接な連携を図った。

2022年度は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴うコロナ禍において、可能な限りの事業が遂行された。保険契約部門では海外への留学保険が一部復活したこと、人材派遣業務では派遣社員が増加したことがあり、一方で施設貸出では資格試験受験者が減少したことやWeb開催が普及したことの影響で収入の減少が続いた。

(b) 学院財政等への貢献

(単位：千円)

学院への貢献内容（定量面）	金額
寄付金（大学、高校、中学・東村山高校の教育研究に要する経費への支援）	3,000
学院の収入確保への貢献（*施設貸出収入、事務所家賃等）	111,284
学院関連団体（学生団体、同窓会、へボン経済人会）への広告料	288
合 計	114,572

*施設貸出利用者：57団体、113件、利用者数96,732人（大学、中学・東村山高校）

*白金チャペル結婚式利用者：9組、列席者170人

(c) 株式会社明治学院サービスの2022年度決算

(単位：千円)

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
売上高	825,734	859,153	840,291	843,755	914,949	893,397
経常利益	11,217	10,115	7,073	△2,043	9,265	14,576
当期利益	7,620	7,352	4,883	△2,565	7,028	10,467

2. 明治学院大学

(1) 事業計画

- ① 明治学院のキリスト教教育の展開 <教学>
- ② 教学改革と教育改善の推進 <教学>
- ③ グローバル教育の充実 <教学>
- ④ ボランティア活動の充実 <教学>
- ⑤ キャリアサポート体制の充実 <教学>
- ⑥ 学生へのサポート体制および学業支援（奨学金）の強化 <教学>
- ⑦ その他の計画 <教学>
- ⑧ 施設および設備の充実 <施設>
- ⑨ 人事体制の強化・整備 <人事>

(2) 事業計画の進捗状況

2021年度より、明治学院大学の事業計画は、学校法人明治学院中期計画（2020-2024）に基づく施策ならびに単年度計画のうち重点的に取り組む施策を中心に記載しており、その計画に基づき、報告を行う。

※◎は中期計画掲載案件、○は短期案件を表す。

① 明治学院のキリスト教教育の展開 <教学>

◎【建学の精神の浸透】

チャペルアワーは対面での実施へと戻し、2021年度よりも参加者が増加した。新たな取り組みとして「キリスト教建築ツアー」、「オルガン時間」、「キリスト教書・グッズ専門店ポップアップストア」等の行事を実施した。

② 教学改革と教育改善の推進 <教学>

◎【教学改革に対する財政支援】

将来的に全学部の学生に展開できるような取り組みへの支援を行う「学長プロジェクト」、各学科の教育の特徴を際立たせる取り組みへの支援を行う「学長裁量的予算枠プロジェクト」を用意し、各プロジェクトの進捗状況を踏まえ、予算を増減するなど、進捗管理を適切に実施した。

学長プロジェクト	・「内なる国際化」に対応した人材の育成 ・21世紀型リベラルアーツ教育のための教材・カリキュラム開発と実施：グローバル・シチズン育成を目指して
学長裁量的予算枠プロジェクト	・実験経済学・行動経済学プロジェクトの展開 ・国際化教育の展開と検証 ・座学とフィールドスタディを組み合わせた平和学短期講座 ・LLTS [Learning to Live Together Sustainably] — 持続可能な共生社会を目指すグローバルシチズンシップ涵養のための教育 —

◎【理系学部の設立】

明治学院大学は今後の情報化社会を担える人材を育成するため、理系の新学部・情報数理学部の設立を進める（2024年度開設予定）。同時に、既存の学部・組織との有機的な連携を目指して《情報科学融合領域センター》を新たに設置し、明治学院大学の理念のもと、次世代の技術を用いた人間中心の未来社会の実現に取り組む。2022年度は設立準備室および情報数理学部協議会を設置し、設立準備室および協議会を中心に各事務局にて申請に向けた準備を進め、2023年3月に文部科学省へ学部設置の認可申請を行った。

◎【教育の範囲や内容の拡充】

全学 AI・データサイエンスプログラムの2023年度開始に向け、新規開講科目「AI・データサイエンス入門」の準備に加えて、AI・データサイエンス教育実施委員会の設置準備等の調整を行った。

◎【アクティブ・ラーニング授業充実のための支援】

対面授業が増えたことにより、アクティブ・ラーニング対応教室の稼働率が向上している。引き続きオンライン授業サポートページを学生向け、教員向けに提供し、Zoom や Teams などを有効活用することでグループディスカッション等、アクティブ・ラーニングの機会を充実させた。

- **【遠隔授業運用支援】**
講義収録配信支援システムを2021年度から導入している。2022年度は対面授業が再開されたため、動画の収録回数は6割程度に減少した。
- **【Webを活用した授業評価アンケートの推進】**
春・秋ともにトラブルなく実施した。教員が過去の授業評価結果を参照・集計可能にするための教員マイページの設計に着手した。
- **【大学院における定員未充足問題への対応】**
(※2015年度受審の認証評価において、指摘事項として挙げられた大学院の定員未充足問題に対応する施策)
大規模な日本留学フェアである、JASSOの日本留学オンラインフェア・日本語学校教員向けのオンライン説明会、日中留学推進機構オンラインフェアに参加し、外国人留学生獲得に努めた。特に後者については、本学のブースに4,439名の視聴者があった。
- **【研究支援】**
2022年度は科学研究費助成事業の応募率8.5%（研究者数355人・応募30件）、新規採択率40.4%（採択12件）であった。
- ③ **グローバル教育の充実 <教学>**
 - **【協定校とのパートナーシップの構築・強化】**
海外大学・機関（ハワイ大学マノア校・トゥレーヌ学院・ソウル国立大学）とのオンラインプログラムを1件主催して実施し13名が参加、また海外大学でのオンラインプログラム4件に費用補助のうえ学生を募集し17名が参加、あわせて30名の参加を得た。
 - **【留学準備や国際的視点を養うためのサポート体制の整備】**
留学する学生の渡航前・帰国後研修、留学を経験した学生が留学を志す学生を支援するピアサポートの研修・体制構築、国際貢献インターンシップ・プログラムの研修を外部業者に委託して13回実施した。参加者は398名であった。動画やポスターなど広報物の作成なども行った。
 - **【留学生と日本人学生の交流の活性化】**
2回のオンラインイベントを実施し、26名が参加した。対面のイベントを4回実施し、60名が参加した。通年のバディプログラムには留学生・一般学生あわせて67名が参加した。
正規留学生によって構成される外国人留学生会の会報を12名の学生が関わる形で作成し、留学生会の活動の認知にもつながった。
 - **【SDGs フィールドスタディーズの開催】**
コロナ禍で学生の現地派遣が困難なため、オンラインプログラムを展開した。外部業者によるカンボジア・インドネシア・フィリピンでのインターンシップ計5プログラムやその説明会を開催し、合計56名の参加を得た。
- ④ **ボランティア活動の充実 <教学>**
 - **【ボランティア・サティフィケートの推進】**
秋学期からはオンラインでのサティフィケート交流会に代わり、主にmanabaでのコーディネーターによる個別指導や、掲示板でのボランティア情報の提供を行った。
 - **【すべての大学関係者によるボランティア活動を促進する】**
いつでも申請できるボランティア支援制度「いつでもボランティアチャレンジ（いつボラ）」について、冊子やホームページでの広報活動を行った。
 - **【1Day for Othersの見直し】**
対面でのプログラム実施を本格再開したため、プログラムを実施した39団体とオンラインや対面でヒアリングと打ち合わせを実施した。
 - **【ボランティアセンターと社会連携課との連携】** ※認証評価事項
港区との協働連携推進事業である「チャレンジコミュニティ大学」は2022年度に開校16年目を迎え、修了生は860名を超えるまでになっている。2022年度は「1Day for Others」に3つの本学学生向けのボランティアプログラムの提供を受け、コロナ禍の定員抑制の中でも13名の学生の参

加を得た。

⑤ **キャリアサポート体制の充実 <教学>**

◎ **【就職活動支援講座の充実、キャリアデザインに資する教育の充実】**

キャリアデザインのための正課授業の認知推進、MG キャリア講座等の就職支援プログラムを実施した。また、2021年度からの新システム「MG キャリアクルー」の広報を強化し、3年次の利用率は75%となった。

○ **【相談体制の充実（キャリアセンター）】**

臨時の相談枠数の増設等の見直しを行った。経験年数の浅い職員に対して、特定非営利活動法人日本キャリア開発協会による「キャリアカウンセリング技能向上研修」を行い、カウンセリング技術の向上を図った。

○ **【学外機関等と連携した就職支援の充実】**

「東京しごとセンター」派遣の講師によるグループディスカッション講座、ホテル白金会との連携による就職支援の取り組み「ホテル業界 OBOG 交流会」を実施した。この交流会は低学年が参加できる貴重な機会となっている（36名の参加者中、1,2年次生は9名）。

○ **【発達障がい（傾向を含む）をもつ学生を意識した就労等支援の充実】**

2022年度もオンライン方式による開催であったが、従来の対面方式の講座とほぼ同様の内容を各学期9回ずつ実施した。本講座の特徴である一人一人の特性やニーズに応じた支援を行った。

○ **【企業との連携強化】**

様々な企業・団体から協力をいただき、寄付講座・パートナーシップ講座を開講し、実社会での現場経験を踏まえた教育の提供を推進した。

	提供元企業・団体
寄付講座・ パートナーシップ講座	野村証券、ファーストリテイリング財団、三菱 UFJ 信託銀行、 日本 FP 協会、日本赤十字社、金融経済教育推進会議、 日興リサーチセンター（株）

⑥ **学生へのサポート体制および学業支援（奨学金）の強化 <教学>**

◎ **【学業支援（奨学金）の再整備】**

2022年度は高等教育修学支援新制度が普及し、貸与型の奨学金を利用する学生が減少したため、貸与型の奨学金を利用している学生を対象とした「へボン給付奨学金」の利用者も減少する傾向にあった。「中間層への給付額の上昇」を実現するために、高等教育修学支援新制度の対象にならない学生に対し、へボン給付奨学金の給付額が増額となるように給付した。

◎ **【多文化共生を担う学生サポートスタッフの育成】**

オンライントレーニングシステムの活用による学生サポートスタッフの体系的養成を実施した。また、障がいに関連する講演会・ワークショップを実施した。

⑦ **その他の計画 <教学>**

◎ **【首都圏以外からの学生（特別入試も含めて）の確保】**

One Day Campus を3年ぶりに対面で開催し、ジオターゲティングという GPS の位置情報を用いて特定の者に広告を表示させる方法で主に4エリア（札幌、仙台、静岡、福岡）向けにイベントのPRを行った。また、学外入学試験会場を設けている上記4都市に加え、重要視している北関東で成蹊大学・成城大学・明治大学・明治学院大学の合同ガイダンスを初開催した。

○ **【入試業務のオンライン化】**

ほぼ毎月、オンラインで大学紹介と入試説明をそれぞれ2回ずつ実施した。また、国際学部2学科では、9月入学希望者を対象とした入試制度で主に国外からの出願者に対してオンラインで面接試験を実施した。

○ **【内部質保証体制の構築とその実質的な運用】 ※認証評価事項**

本学は2022年度に3回目の大学評価（認証評価）を受審した（1回目は2009年度、2回目は2015年度に受審）。点検・評価報告書の書面評価については大学基準協会からの問い合わせ等に

対し、迅速、かつ適切な対応ができた。10月に行われた実地調査についても、各部局の支援のもと遂行した結果、「適合」の認定（認定期間：2023年4月1日～2030年3月31日）を受領した。

◎ **【広報力の強化】**

- (a) ターゲットを見据えた広報展開の継続
SNSの運用に関して、ツール自体の見直しなど都度最適な手法で若年層へのアプローチを続け、さらに高度なアプローチができるよう、新しい専門業者の選定を行った。
- (b) プレスリリースの強化
教員の研究を切り口にしたプレスリリースをより意識し、教育研究の充実をアピールした。教員への取材依頼も増えており、よい反応を得ることができた。
- (c) 大学 Web サイトの充実
2022年度は「明学の理由。」を引き続き動画とテキスト合わせて制作した。学生、教員、卒業生それぞれの掲載を増やしたことに加え、対談企画なども充実させ、明学に関わる人の魅力を伝えることで、本学の特色を示す重要なコンテンツに成長している。

◎ **【横浜キャンパスプロジェクトの推進】**

- (a) 通学対策
バス問題の解決のため、学期定期券の販売をキャンパス内で開始し、春学期3,252枚、秋学期3,675枚と、各学期2,000枚の予想を大きく上回る販売数となった。急行バスを大幅に増やして待ち時間短縮の改善につなげた。
- (b) ピアサポートの推進
キャンパスコンシェルジュは、対面に加え YouTube や Instagram、Twitter など、複数の SNS で情報発信する体制を確立した。
- (c) 「社会貢献」活動の実施と学生への意識浸透
「戸塚まつり」は、オンライン配信にて実施した。一部のプログラムは有観客で実施し、地域の方の来場が復活した。
- (d) 飲食環境の充実
「横浜キャンパスプロジェクト飲食環境充実検討チーム（通称：ごはん部）」が2021年度に引き続き、キッチンカー情報や簡単レシピの配信、フードライブへの参加などの活動を行った。

○ **【生涯学習環境の充実】**

2018年度より開設した「明治学院プラチナカレッジ」は5年目を迎えた。コロナ禍に伴い社会への学びを提供することを優先し、春学期をオンライン開催、秋学期を対面開催とし、2022年度は全4シリーズで、のべ913名が参加した。

○ **【ハラスメント防止・対策に関する教職員への研修会（講演会）・啓発活動の強化】**

これまでは新型コロナ感染症拡大の影響で対面での研修の機会が限られていたが、2022年度は12月の世界人権デーに合わせ、「MG 人権 Week」を開催し、7回の講演会に、学生を含め約275名が参加した。

○ **【校友との絆の強化】**

2022年度の各地校友会は、6会場での開催が計画されていたが、コロナ禍によりいずれも中止とし、他の活動に振り替えた。

◎ **【環境問題への取り組み】**

省エネルギーのための取り組みとして照明 LED 化工事を計画し、白金・横浜両キャンパスで予定通り実施した。

⑧ **施設および設備の充実 <施設>**

◎ **【横浜キャンパスの整備】**

情報数理学部の開設に合わせて、新校舎の建設作業に着手した。

◎ **【サテライトキャンパス（教室）の設置を目指す】**

サテライトキャンパスに適した候補地については、継続して調査を続ける。

◎【図書館における学生の主体的学びの推進】

コロナによる学生の機器利用や行動の変化（持込デバイスの急増）に対応するため、デスクトップPCを一部撤去し、様々なデバイスを接続し利用できるよう2023年度に向けモニター設置の計画を立案した。

○【教室・実習室のICT設備機器の充実】

白金8教室、横浜5教室のHDMI化（High-Definition Multimedia Interface）対応工事を実施した。これにより、203教室中179教室がHDMI化され、未対応は24教室となった。

◎【防災計画】

勤務員用の防災ヘルメットについては経年劣化のため、専任教職員・常勤勤務員に対して更新作業を行った。食品備蓄については、数日間の滞在に必要な食数として、横浜キャンパスに27,118食、白金キャンパスに38,212食を備蓄した。

⑨ 人事体制の強化・整備 <人事>

◎【事務組織の見直しと強化】

事務組織の再編・統合について検討を行った。

◎【勤務員の就労環境の見直し】

勤務員の就労環境の見直しにあたり、専門職種の定年問題への対応を中心に進めた。また、在宅勤務の制度化等への検討等を行った。

(3) 教育研究の概要

① 教育方針に関する情報

「人材養成上の目的・教育目標」および3ポリシー（カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー、アドミッション・ポリシー）を改定し、ホームページ等で公開している。

<https://www.meijigakuin.ac.jp/about/doforothers/>

② 教員の保有学位、業績に関する情報

教員の保有学位や研究業績については、ホームページで公開している。

<https://gyoseki.meijigakuin.ac.jp/mguhp/KgApp>

③ 卒業者数、卒業後の進路に関する情報

2022年度の卒業者数、卒業後の進路については、以下の通り。（2023年5月1日時点）

(人)

	合計			文学部			経済学部			社会学部			法学部			国際学部			心理学部			
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
卒業者	982	1,675	2,657	111	362	473	279	298	577	133	323	456	321	270	591	71	194	265	67	228	295	
進路内訳	就職・既職者	819	1,464	2,283	80	311	391	244	272	516	118	292	410	274	237	511	53	152	205	50	200	250
	大学院進学者	32	43	75	3	6	9	6	5	11	0	4	4	12	10	22	2	6	8	9	12	21
	大学・短期大学進学者	5	3	8	1	0	1	0	0	0	1	0	1	0	1	1	1	2	3	2	0	2
	専修学校・外国の大学等入学者	5	14	19	2	3	5	1	2	3	0	1	1	2	3	5	0	2	2	0	3	3
	一時的な仕事に就いた者（※1）	13	29	42	3	9	12	3	2	5	1	9	10	3	2	5	3	2	5	0	5	5
	上記以外の者（※2）	107	122	229	22	33	55	25	17	42	13	17	30	29	17	46	12	30	42	6	8	14
不詳等（死亡を含む）	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	

※1 一時的な仕事に就いた者：卒業後、パート、アルバイトなどの臨時的な収入を目的とした仕事に就いた者。

※2 上記以外の者：卒業後、進学でも就職でもないことが明らか者。

（例）進学準備中の者、就職準備中の者、公務員・教員採用試験・国家試験の準備中である者など。

④ 教育課程に関する情報

各学科・研究科のカリキュラムおよび卒業までの流れ、各授業科目の内容・授業の方法ならびに授業計画の概要を記載したシラバスについては、ホームページで公開している。また、2020年度生より、科目ナンバリングを適用し、授業の体系的・順次性を学生にわかりやすく示している。

各学科・研究科のカリキュラムおよび卒業までの流れ <https://www.meijigakuin.ac.jp/academics/>
シラバス <https://kyomu.meijigakuin.ac.jp/kyomu/UnSSOLoginControlFree>

-
- ⑤ **学修の成果に係る評価および卒業の認定にあたっての基準に関する情報**
各授業科目の成績評価の基準については、ホームページで公開している。
<https://www.meijigakuin.ac.jp/disclosure/>
- ⑥ **環境に関する情報**
所在地や主な交通手段・キャンパスの概要については、ホームページで公開している。
所在地 <https://www.meijigakuin.ac.jp/disclosure/campus.html>
交通アクセス <https://www.meijigakuin.ac.jp/access/>
キャンパスの概要 <https://www.meijigakuin.ac.jp/campus/>

3. 明治学院高等学校

(1) 事業計画

〔教育・研究における重点分野〕

- ① キリスト教教育
- ② カリキュラムの検討と学力の向上
- ③ 生徒の多様な進路実現のための、きめ細かい指導
- ④ ボランティア活動の充実
- ⑤ 中高大連携の推進
- ⑥ 高校校舎改築
- ⑦ 行事・課外活動の充実
- ⑧ 教育研究活動の充実
- ⑨ 「総合的な探究の時間」の整備・発展
- ⑩ 国際交流活動の推進
- ⑪ 防災教育・訓練、熱中症対策、新型コロナウイルス感染症対策等の強化
- ⑫ スクールコンプライアンス

〔生徒募集〕

- ⑬ 入試広報部会を中心とした取り組みの充実
- ⑭ 推薦試験合格者への働きかけ
- ⑮ 過去の入試状況
- ⑯ 2023年度生募集
- ⑰ 広報活動

〔その他の特記事項〕

- ⑱ 『保護者の手引き』の作成
- ⑲ 校務体制の整備

〔大学合格者数の実績〕

- ⑳ 2019～2022年度大学合格者数

(2) 事業計画の進捗状況

〔教育・研究における重点分野〕

① キリスト教教育

明治学院高等学校は「真理はあなた方を自由にする」(ヨハネによる福音書8章32節)、「隣人を自分のように愛しなさい」(マタイによる福音書第22章39節)という聖書の御言葉を基盤とし、ヘボン、ブラウン、フルベッキなど学院創立にあたった宣教師の建学の精神と改革長老派の伝統を受け継いできた。教育理念は「福音主義キリスト教に基づく人格教育、愛と平和、周囲の人びとを思いやる教育」であり、この教育理念にそって、具体的な活動を進めている。

日々の礼拝はキリスト者教職員、講師、学院長、学院牧師、準宣教師(英語礼拝)が中心となっており、学期に1回を目安にキリスト者ではない教職員によるアッセンブリー(講話)を実施した。礼拝暦に基づき、特別礼拝を教会の牧師、学校の教師、社会活動に従事しているキリスト者を招いて実施した。コロナ禍のため教室での放送礼拝が多かった前年度とは異なり、チャペルでの礼拝を感染対策を講じつつ行った。また、新校舎完成後は礼拝ホールでの礼拝も複数回実施している。3学期より賛美歌の歌唱も再開することができた。

(a) 特別礼拝

(敬称略)

特別礼拝	講師
3年イースター礼拝	小川洋二(長原教会牧師)
2年ペンテコステ礼拝	郭修岩(日本バプテスト連盟東京北キリスト教会宣教師)
1年特別礼拝(旧母の日礼拝)	吉村和雄(キリスト品川教会牧師)
2年生特別礼拝(キリスト教教育週間)	滝澤さおり(キリスト教海外医療協力会 JOCS)
3年生特別礼拝(キリスト教教育週間)	長澤正隆(NPO法人関東医療相談会)カトリック終身助祭
1、2年クリスマス礼拝	小林信人(高輪教会牧師)
3年クリスマス礼拝	松田真二(日本キリスト教会蒲田御園教会牧師)
3年卒業礼拝	林 巖雄(聖書科非常勤講師)
1年信教の自由を守る日特別礼拝	平塚敬一(元立教女学院中高校長 横浜共立学園理事)
2年信教の自由を守る日特別礼拝	渡辺祐子(明治学院大学 教養教育センター長)

(b) 生徒と共にいったキリスト教活動

- ・明治学院にかかわる故宣教師・先達者の墓地清掃と墓前礼拝

実施日	場所	参加者
10月31日	瑞聖寺	生徒11名、教員5名

生徒たちは学院の礎を築いた宣教師の名前を確認しつつ丁寧に清掃をしていた。また、清掃後に墓前礼拝を行い、生徒と教職員が共に感謝の祈りを捧げた。

- ・白金クリスマスツリー点灯式（共催）

実施日	場所	お話
11月18日	記念館前芝生	村田玲音学長

グリーンクラブが留学生と共にミュージックベルを演奏した。

- ・アドヴェント礼拝

実施日	場所	お話	参加者
11月18日	礼拝堂	竹澤潤平（本校聖書科教諭）	約350名

準備スタッフとして生徒が30名近く集まって共に礼拝の準備をした。

- ・オルガン講座

学院オルガニストによるパイプオルガン講座を生徒17名が受講した。受講生には礼拝時の前奏を担当する機会が与えられた。また、PTA 教養福祉委員会主催の「チャペルコンサート」での演奏を行った。

- ・一日研修会

3月27日（月）に玉川平安教会で実施する予定であったが、参加希望者が少なく中止となった。

- ・クリスマス献金の呼びかけ

保護者や生徒へ呼びかけ、キリスト教福祉団体等30団体へ贈った。

(c) 教職員の聖書理解を深める教育活動

- ・聖書講話

実施日	場所	お話	参加者
4月5日	礼拝堂	西原簾太 立教大学総長	教職員52名

- ・シェアリングメッセージミーティング

各学期1回、家庭科室で準宣教師を中心に教職員が聖書について語り合う場を持った。

- ・祈祷

コロナ禍になる前、毎週1回実施していた有志参加の教職員祈祷会は実施できなかったが、教職員が集う会議については毎回祈りをもって始めた。

(d) 教会への導き

- ・1年生に配布した「キリスト教の手引き」に教会の紹介ページを掲載し、礼拝への出席を奨励した。
- ・特別礼拝時に配布した「からし種」に教会案内を掲載した。

② カリキュラムの検討と学力の向上

新学習指導要領に準拠した新カリキュラムの授業を1年生より実施している。観点別評価の導入によって授業内容や試験を今まで以上に工夫する必要に迫られたが、新しい視点で授業や評価を見直す良い機会となった。コロナ禍で導入されたオンライン授業の技術は、対面式の授業と並行して欠席者に授業配信をする時に用いられ、生徒の学びを保証する手段となっている。2022年度は、さらに以下の点で学力の向上を目指した指導を推進した。

- 新校舎に設置された電子黒板を積極的に活用し、デジタル教科書や動画、画像を用いた双方向の授業実践を多数行った。
- 『学習の手引き2022』（必修および選択科目の案内）を作成し、事前に教科内容を提示・説明するなど丁寧な指導を心がけた。
- 苦手教科がある生徒への補習を定期的に行った。特に新校舎では教員室前の質問スペースがあり、そこを活用して学習サポートを行うことができたことは生徒の安心感につながった。深く学びたい生徒を対象にした講習も定期的実施した。
- 音楽・美術・書道などの芸術科目についても十分に学ぶ時間をとった。また、家庭科において被服実習、消費者教育など、社会に出てから役立つような授業にも重点を置き実施した。
- 数学の授業の充実を図るため、2年生の必修科目において習熟度別授業を実施した。国語科

や英語科でも選択授業等で緩やかな習熟度別授業を実施した。

- (f) 自由選択では韓国語講座、フランス語講座を実施した。韓国語に対する興味関心は高く、2023年度には複数クラスで授業を実施することとなった。
- (g) 3年生の3学期に生徒のニーズに合わせて本校教諭による特別講座を開き、大学への準備の学習および教養的学習を行った。

③ 生徒の多様な進路実現のための、きめ細かい指導

- (a) 「一人ひとりを大切にする進路指導」により「生徒の様々な夢をサポート」することを基本方針とし、具体的な指導を進めた。
- (b) 学年ごとの指導

	指導目標	指導内容	具体的活動	学年通信
1年生	基礎学力を培い視野を広げる	基礎学力の養成に努めるとともに、様々な価値観・生き方を知ることによって将来の可能性を広げる	進路ガイダンス、進路適性検査（学びみらいPASS）、全国模擬テスト、明治学院大学を知る会など	ほっぷ
2年生	個性を確立し、進む道を見つける	自らが将来何をしたいのか、そのための実現方法を考え行動する	進路適性検査（学びみらいPASS）、全国模擬テストなど 大学教員による出張講義は実施できなかった	すてっぷ
3年生	進路の実現に向けて飛躍する	学力の確立に努める	明治学院大学学部学科説明会、面接指導、全国模擬テスト、推薦試験説明会、大学入学共通テスト説明会など	じゃんぷ

- (c) 全校の生徒・保護者に向けて『2022年度 進路の手引き』を発行した。
- (d) 大学入試のための補習・講習を実施するとともに、一人ひとりの進路に合わせた指導を行った。
- (e) マレーシアの大学に指定校推薦での進学者を得た。

④ ボランティア活動の充実

- (a) コロナ禍で様々な制限があったが、タイ・パヤオプロジェクトのメンバーによる物販やハイY部（ハイスクールYMCA）による街頭募金などを行った。
- (b) ハイY部が大学ボランティアセンターを訪問し、情報交換を行った。

⑤ 中高大連携の推進

- (a) 明治学院大学系列校特別推薦入試の結果
2022年度は明治学院大学系列校特別推薦制度により126名、高校3年生全在籍者の42.0%が明治学院大学に進学した。明治学院大学への近年の進学率は、2018年度が38.3%、2019年度が43.1%、2020年度が42.8%、2021年度が39.7%となっている。
- (b) 明治学院大学の教員の協力を得て「大学入門講座」を行った。1学期に法学部法律学科、心理学部心理学科、社会学部社会福祉学科、経済学部経営学科、文学部芸術学科の授業を行った。2学期は新書を読んで要約と感想を書いたり、PechaKuchaプレゼンテーションをモデルにして志望学部について深掘りし発表するなどした。2022年度は6名が受講した。
- (c) 明治学院大学入学前教育として行われる事前課題の実施、ならびに明治学院大学主催「J.C. バラ・プログラム」に大学・東村山高校と協力して取り組んだ。
- (d) 明治学院大学から教育実習生4名を受け入れ、教育実習を指導した（全教育実習生7名）。
- (e) 高大接続の一環として明治学院大学入学を志す希望者を対象にしたTOEFL講座の開催が計画されたが、夏の講座は開講基準を満たすことができず（応募者3名）、また12月の講座には応募者がおらず、開講に至ることができなかった。2023年度から徐々に海外留学や海外進学を目指す生徒の増加が見込まれるため、引き続き講座の開催を目指して大学と連携する。

⑥ 高校校舎改築

- (a) 新校舎建築工事は計画通りに進捗し、7月に竣工した。7月30日に献堂式を実施し、学院関係者をはじめキリスト教同盟加盟校や近隣の私立学校、建築関係者、旧教職員、同窓生など多数の来賓と共に新校舎の完成を祝い、感謝する時を持った。新しい校舎での教育活動は生徒、教職員双方にとって喜びの多い充実したものとなっている。
- (b) 2019年度から募集した「新校舎建築募金」を校舎竣工をもって終了した。この間支援いただいた方々に向けて募金報告書をお送りするとともに、寄付者銘板を礼拝ホールに掲げた。

- (c) グラウンド復旧工事が2023年5月まで計画より2ヶ月延長することになったため、外部施設への生徒送迎（部活動）のためマイクロバス（リース契約）の運行を継続することにした。
- (d) 新校舎建築期間中は据え置いていた学納金（授業料・施設費・入学金等）について、2023年度から値上げを実施することとした。

⑦ 行事・課外活動の充実

- (a) 2022年度はコロナ禍の中で中止や縮小をしていた多くの行事を感染対策を講じつつ再開した。校外ホームルームは例年多くのクラスが実施している野外での調理は行わなかったものの、生徒がホームルーム討議を経て企画するクラス単位の遠足という本来の形に戻すことができた。水泳大会、合唱コンクール、体育祭も感染対策を講じつつ例年に近い形で実施した。オリーブ祭（文化祭）はウェブでの申し込みを導入し、時間制限を設けて入れ替え制にしたが、各クラスの発表は例年に近い形で実施することができた。
- (b) 学習とクラブ活動（課外活動）のバランスをとって、豊かな高校生活を過ごせるよう指導した。コロナ禍で活動が制限される中、感染防止対策を徹底して指導した。

<部活動等実績>

クラブ名	実 績
写真部	東京写真カップ団体戦 優秀賞
バドミントン部	高体連主催 冬季東ブロック大会 第Ⅱ部 第3位
ブラスバンド部	第62回東京都高等学校吹奏楽コンクールB組 金賞
アメリカンフットボール部	高体連主催東京都春季大会兼第49回関東高等学校アメリカンフットボール大会予選 東京都ベスト4 関東高校アメリカンフットボール連盟主催 第48回関東高等学校アメリカンフットボール大会 2回戦進出 高体連主催 東京都秋季大会兼第50回全国高等学校アメリカンフットボール大会予選 東京都ベスト8
書道同好会	東京学芸大学書道科同窓会 硯心会主催第46回学芸書道全国展 硯心会理事長賞 第38回高円宮杯日本武道館書写書道大展覧会 毛筆の部 大会奨励賞 第39回高円宮杯日本武道館書写書道大展覧会 硬筆の部 日本武道館賞 広島県熊野町主催 第46回ふれあい書道展 筆都大賞 東京都高等学校文化連盟書道部会 第35回東京都高等学校文化連盟書道展 奨励賞 日本武道館主催 第59回全日本書初め大展覧会 特選

- (c) 生徒を取り巻く教育状況、現代の生徒の心理、本校の生徒の様子について、カウンセリング委員会を開き、情報交換し、教職員に発信した。また、管理職と相談員、養護教諭とのカンファレンスも定期的に行った。

⑧ 教育研究活動の充実

- (a) 生徒を取り巻く教育環境や現代の生徒の心身の状況について、学年会、クラスPTAなどを通して、教職員、養護教諭、保護者が共に学び、話し合う機会を持った。
- (b) 教員免許更新制度は廃止されたが、多様な研究会の案内を教職員に提示することにより学外での学びや研究活動を奨励した。

⑨ 「総合的な探究の時間」の整備・発展

- (a) 例年、1年生を対象に行っているガイダンス合宿はコロナ禍のため宿泊は取り止め、ガイダンス期間中に「キリスト教と明治学院」、「明治学院の建学の精神と歴史」などのガイダンスプログラムを実施した。
- (b) 2年生は、「教師と生徒がともに生き方を考えていく独自の体験・研修旅行」を実施した。下記コースに分かれて1年間の授業を行い、探究的な学習を深めた。研修旅行に関しては期間を縮めたり、行き先を近郊に変更したり縮小して行った。
- ・「田舎暮らし」農作業体験をしながら田舎の暮らしを学ぶ（新潟県魚沼市）
 - ・「長崎」歴史・異国情緒あふれる文化・平和・キリスト教を学ぶ
 - ・「沖縄」歴史・文化・平和・自然を学ぶ
 - ・「京都」歴史・文化・衣食住・宗教を学ぶ
 - ・「韓国」歴史・文化の学習
 - ・「台湾」歴史・教育・宗教・文化の学習

⑩ 国際交流活動の推進

- (a) 3月末～4月に行われているオーストラリア研修は、新型コロナウイルス感染抑止のため中止とした（4年連続）。
- (b) JET（The Japan Exchange and Teaching）Programme を利用した外国語指導助手（ALT）を引き続き任用し、外国語教育の充実と異文化交流の促進を図った。

⑪ 防災教育・訓練、熱中症対策等の強化

- (a) 東京私立中学高等学校協会第二支部と連携し、災害時の情報伝達訓練を実施した（9月）。
- (b) 生徒が3日間生活できることを想定し、災害対策用の備品（食糧、水、マット、災害用ブランケット、簡易トイレ等）を整備し、緊急時に備えた。
- (c) AEDの講習会を12月に実施した。
- (d) 新型コロナウイルス感染症拡大抑止のためCO2測定器を用いて各教室の換気状況を確認するとともに、校内への立ち入り時は手指消毒やサーモグラフィーによる体温計測を実施した。また、登校する生徒、教職員全員に体温や体調に関する毎朝の健康観察アンケートをGoogle Formsで提出させ管理した。

⑫ スクールコンプライアンス

いじめ防止について、学年会を中心に日常的に情報を集めた。2022年度においては指導を必要とする案件は見られなかった。

〔生徒募集〕

⑬ 入試広報部会を中心とした取り組みの充実

2019年度より導入したWeb出願のシステムを学校見学会などの予約受付などに活用した。さらに今年度も合格発表をWeb上で行った。

⑭ 推薦試験合格者への働きかけ

昨年度まで中止をしていた推薦合格者対象の基礎力確認テスト（英数国）を再開し、苦手科目がある推薦入試合格者には補習を行った。

⑮ 過去の入試状況

過去3年間の入試応募者数

2021年度	2022年度	2023年度
1,310名	1,391名	1,709名

⑯ 2023年度生募集

募集人員	男女合計330名（前年度同数）
募集方法	推薦入試1回（男女各60名）
	一般入試2回（第1回 男女各75名、第2回 男女各30名）

2022年度まではコロナ禍のため推薦入試の面接回数を減らす等の感染対策を行っていたが、2023年度入試は通常通りの形態に戻すことができ、推薦入試では面接を2回行った。また、新校舎のバリアフリー化により合理的配慮を必要とする受験生にも対応をすることができた。

⑰ 広報活動

- (a) 今年度の学校説明会はWeb申し込みの学校見学会として実施した。特に新校舎が完成した2学期以降の見学会には多数の受験生と保護者の申し込みがあった（10月2回、11月、12月の計4回）。

外部の説明会については、キリスト教学校フェア、私学フェア2回、学習塾全国連合協議会の説明会に参加した。どの説明会も対面で実施された。

- (b) 学校説明会（校舎見学会）について
参加者組数

2021年度	2022年度	2023年度
1,184組	2,042組	2,675組

- (c) ホームページは、更新の頻度を高くし、カリキュラムの紹介、総合探究の紹介、礼拝でのお話、生徒会・クラブ活動、施設・環境、進路指導、生徒募集など、新しい情報を掲載した。

年度 種別	2021年度				2022年度				2023年度			
	推薦	一般①	一般②	計	推薦	一般①	一般②	計	推薦	一般①	一般②	計
募集数	120	150	60	330	120	150	60	330	120	150	60	330
応募者	354	578	378	1,310	307	604	480	1,391	393	704	612	1,709
受験者	148	542	294	984	141	575	366	1,082	147	673	472	1,292
合格者	148	188	72	408	141	192	82	415	147	180	78	405
入学者	148	119	47	314	140	122	65	327	147	117	50	314

〔その他の特記事項〕

⑱ 『保護者の手引き』の作成

生徒の学習や生活について、保護者の理解と協力を得るために、2022年度も『保護者の手引き』を作成した。

⑲ 校務体制の整備

2011年度から10年間をかけて部会の新設と事務長の設置を含めた校務組織の改編を実施してきた。具体的には、生活指導部会、教務部会、庶務部会の3部会制度から進路指導部会と行事指導部会、入試広報部会を加えた6部会制度に段階的に移行するとともに、各部会の主任を教職員の互選で選出することとした。

また、2017年度より初めて事務長を設置し、新校舎建築の推進と事務室の統括を担うこととした。新体制についての総括は2021年度3学期から継続的に行っているが、副校長が入試広報部会の主任を兼ねることによる加重負担など、今後も検討すべき課題が指摘されている。

〔大学合格者数の実績〕

⑳ 2019～2022年度大学合格者数

現役浪人合計数。短大・専門学校合格者は除く。

[] 内は一般受験して明治学院大学に合格した数。

(2023年4月7日現在)

主な私立大学合格校	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
明治学院大学 [内 一般受験合格者数]	134 [3]	144 [3]	130 [9]	138 [11]
早稲田大学	13	11	4	9
慶應義塾大学	14	12	11	8
上智大学	27	8	12	11
東京理科大学	5	9	6	5
国際基督教大学	1	1	2	2
明治大学	17	23	18	33
青山学院大学	25	25	37	30
立教大学	36	20	24	32
中央大学	14	24	24	21
法政大学	28	20	31	43
学習院大学	8	8	9	8
成蹊大学	5	8	9	12
成城大学	14	11	14	9
日本大学	31	18	14	32
東洋大学	12	19	10	13
駒澤大学	5	7	10	5
専修大学	10	3	1	7
國學院大学	2	10	5	5
武蔵大学		2	6	2
津田塾大学		3	3	1
東京女子大学	8	9	14	4
日本女子大学	10	2	9	5

芝浦工業大学	8	4	2	2
東京都市大学	3	6	2	2
東京農業大学	1	9	5	5
同志社大学		7	1	4
立命館大学	7	4	4	2
関西学院大学	6	4	5	3
北里大学	3	2	2	2
順天堂大学	2	4	1	4
杏林大学	3	4	1	4
東京薬科大学	3	3	1	3
昭和大学	1	2	1	
多摩美術大学	3	4	2	

国公立大学合格校	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
北海道大学			1	1
東京都立大学				1
岩手大学			1	
九州大学			1	
東京海洋大学		1	1	
金沢美術工芸大学		2		
東京外国語大学	1	1		
横浜国立大学		1		
高崎経済大学		1		
埼玉大学		1		
千葉県立保健医療大学		1		
弘前大学		1		

4. 明治学院中学校・東村山高等学校

(1) 事業計画

〔教育・研究における重点分野〕

- ① キリスト教教育
- ② 学力向上
- ③ キャリア教育
- ④ 進路指導
- ⑤ 中高大の連携推進
- ⑥ 行事・課外活動
- ⑦ グローバル教育
- ⑧ 校地整備
- ⑨ 奨学金等、就学支援制度の充実
- ⑩ 学校評価
- ⑪ 防災・防犯対策の強化
- ⑫ 新型コロナウイルス感染症対策
- ⑬ スクールコンプライアンス

〔生徒の募集計画〕

- ⑭ 募集対策と入試結果

〔その他の特記事項〕

- ⑮ 卒業生（同窓会員）との紐帯強化
- ⑯ 専任教員の前倒し採用

〔大学合格者数の実績〕

- ⑰ 2019～2022年度大学合格者数

(2) 事業計画の進捗状況

〔教育・研究における重点分野〕

① キリスト教教育

本校では学院の建学の精神「キリスト教に基づく人格教育」に従い、「贖罪と愛による教育」を教育理念とし、「道徳人・実力人・世界人の育成」を教育目標に、様々な活動を実践しキリスト教教育の充実に努めることとしている。

(a) 礼拝および講演会

- 1) 本校独自の礼拝暦に基づき、クリスチャン教職員、非常勤講師による毎朝10分間の放送礼拝を各教室にて守った。新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、今年度も講堂・チャペルでの礼拝を控えた。今年度はリモート学習期間がなく、安定して通年放送礼拝を守ることができた。
- 2) 特別礼拝は近隣の教会や学院から牧師・講師を招くのを控え、学内関係者による動画礼拝または放送礼拝とした。信教の自由を守る日講演会は動画での講演会となり、生徒たちは各教室で視聴した。高1と高2は2月6日に、中学は3月1日に行った。

特別礼拝

4月16日	イースター礼拝	佐藤 倫子（本校教諭）
4月23日	家族礼拝	北川 善也（学院牧師）
5月11日	※ペンテコステ礼拝	鶴殿 博喜（学院長）
10月24日	※宗教改革記念礼拝	北川 善也（学院牧師）
10月31日	創立記念礼拝	鶴殿 博喜（学院長）
11月26日	永眠者記念礼拝	伊藤 節子（本校校長）
11月28日	クリスマス点灯式	大西 哲也（本校副校長）
12月20日	※クリスマス礼拝	山崎 雅男（理事長）
3月1日	高3卒業礼拝	荒幡 美和（本校教諭）

注) 表中※印の礼拝では献金を行い、総額約128万円を学校周辺の社会福祉施設、神学校、キリスト教諸団体他、合わせて23箇所に送金した。

(b) ボランティア活動

- 1) 中学ではボランティア学習と体験を重視した活動を各学年で行った。
- 2) 高校ではフィリピンとの間で25年間CFJ（Child Fund Japan、旧キリスト教国際精神里親運動）のプログラムに参加している。生徒一人毎月100円の支援金により、クラスで一人の

チャイルドを支えた。夏休みに実施していたコイン募金を「ペンテコステ献金」と名称を変え、37万円をJOCS（日本キリスト教海外医療協会の）に送った。また、ペンテコステ献金の中から8万円を、バンコクYMCAを通してエイズ孤児や人身売買・労働搾取の被害から守られている子供たちの施設「パヤオセンター」のために資金援助した。

- 3) クラブ活動の一環として、中学ハンドベルクワイアが毎年行っている教会における演奏奉仕を実施した。
- (c) その他各種懇親会・懇談会・研修会等

	実施日	備 考
キリスト教教育懇談会	6月20日	「修養会報告」 参加者37名
	11月14日	「生徒たちが感じたキリスト教」 参加者35名
キリスト教研修会	5月11日	「明治学院が掲げるキリスト教教育」(本校教職員が参加)

- (d) 聖書の授業

学院史・旧約聖書・新約聖書・キリスト教史を学ぶことで、3年間または6年間を通して生徒各自が明治学院の歴史と本校の建学の精神であるキリスト教を深く知り、学校を愛し、キリスト教主義による道徳観を大切に出来ることを目指した。副教材として、富田正樹著『キリスト教との出会い 聖書資料集』（日本キリスト教団出版局）、明治学院テキスト作成委員会編『ヤバイぜ！ 聖書（バイブル）』（新教出版社）を全学年共通で使用した。

また、新型コロナウイルスの流行が落ち着いた時期を見て、約2年ぶりに教会の礼拝出席課題を再開した。この課題を通して初めて教会の礼拝に出席した生徒も多くおり、近隣教会のサポートをいただきながら、教会の礼拝への継続的な出席を促せるような環境作りを行った。

- (e) 宿泊研修・修養会

新型コロナウイルス感染症の影響により、宿泊数を減らす、前半後半の2班に分けて実施する等の感染予防策をとりつつ、下記の宿泊行事を実施することができた。しかし、計画をしていたが、感染拡大期に当たり実施できなかった宿泊行事もあった。

学年	場所	実施日	主題
中1	山梨 甲斐路	6/2-6/3	隣人愛について、友達、先生、聖書、キリスト教、自分自身について考える。
中2	山梨 甲斐路	6/1-6/2	「隣人愛を知る」をテーマに、友達、先生、聖書、キリスト教について見つめなおし、隣人について考える。
中3	広島・京都・奈良	9/13-9/16	広島・京都・奈良で平和について考えるとともに、日本の伝統文化について考える。
高1	横浜指路教会 御殿場 東山荘	6/1-6/3	ヘボン先生の人生を通し、神様と自分、周りの人たちと自分、生き方、世界との繋がり等について考える。
高2	長崎	1/16-1/18 1/18-1/20	長崎でキリスト教の歴史を学ぶとともに、被爆地に平和を学ぶ。
高3	箱根旧街道	6/1-6/2 6/2-6/3	「私の好きな聖句」を作成し、キリスト教と向き合う。神様の恵みと友人の支えに気づき、将来について考える。友人と目標を達成する喜びを分かち合う。

② 学力向上

- (a) 授業の充実

本校では、2021年度より中高共に授業時間を従前の45分から50分に延長し、更なる授業内容の充実を図ると同時に、中学（2021年度）、および高校（2022年度より年次進行）で導入した新カリキュラムに基づく授業を展開した。また、2022年度より観点別評価が高校にも年次進行で導入され、各教科で3つの観点（知識技能、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度）に応じてきめ細かく授業や試験を実施することができた。

- (b) 中学校

1) 英語教材として「プログレス21」を採用している。その成果として、3学期にオンラインで実施したスピーチコンテストにおいて生徒が自信を持ってスピーチすることが出来た。英語検定の上位級への合格者数は、準2級61名、2級7名となっている。この教授法で効果をあげるためには家庭学習が大切であり、その指導を厳しく行うことが家庭での学習習慣作りとして他教科の学習にも波及効果が認められる。英語力の客観的な評価を得るために後記GTECを全学年で実施している。

2) 数学検定は、中1終了時で5級、中2終了時で4級が目標級となっており、その後中3で3級、高1で準2級と続く。数学検定の受検は任意としているが、本校を会場として実施す

るなど受検を奨励しており、数学の学力向上の励みとなっている。

- 3) 理科と社会では、野外実地踏査により生徒の興味関心を引き出すことに努めるため、2022年度は下記の行事を実施した。

学年	場所	実施日	主な調査目的
中3	理科校外授業 (生田緑地)	11月10日	地層・断層・浸食等の観察から地史を学ぶ。
中2	社会校外授業 (東京歴史散歩)	9月14日	各人の興味関心を東京の史跡に発見し、かべ新聞で報告する。
中2	理科校外授業 (多摩動物公園)	5月2日	日ごろ接することの少ない動物を身近に観察し、動物の食性の違いと、体のつくりの違いについて理解を深める。

(c) 東村山高校

- 1) 数学や英語では習熟度別クラス、少人数クラスの効果的な授業を行うことができた。
- 2) 高2・高3では進路指導の外部関連業者も活用して学部学科ガイダンスや進路ガイダンスを綿密に行い、明確な職業観を持って自らの進路を開拓できるように促した。
- 3) 「プログレス21」は中学に引き続いて全学年で使用している。英語は「英検2級に合格して卒業」が目標である。更に上位級の準1級10名の合格者を含め、2級以上には203名が合格している。

(d) 学習プログラム

- 1) 2022年度高3生は現行の「学習プログラム」適用の11期生であるが、本プログラムに基づいた高3・高2生徒のコース分けは、系列校推薦コースが3クラス、理系受験コースが1クラス、文系受験コースが2クラスとなった。
- 2) 中学において2022年度は新しいカリキュラムの2年目であり、特に学びに向かう力と人間性等の涵養に主眼を置いた教育活動を行った。
- 3) 2022年度より高校において新しい学習指導要領が実施され（高1より年次進行）、新しいカリキュラムに基づいた教育活動を行った。

(e) 外部検定試験の活用

客観的英語教育評価を得るため、中1から高3までを対象に、2022年度もGTEC (Global Test of English Communication) for Students を実施した（下表：2022年度結果）。

学年 / 受検者数	平均スコア（3技能）	テストタイプ
中1 / 144名	310点	CORE
中2 / 143名	400点	
中3 / 139名	469点	
高1 / 256名	513点	STANDARD
高2 / 252名	614点	ADVANCED
高3 / 255名	624点	

(f) 補習講習

学習の遅れた生徒には補習を、難度の高い学習を希望する生徒向けには講習を各々設定・実施し、生徒のニーズに応じている。長期休暇中に48講座を実施、多くの生徒が参加し学習に励むことができた。

(g) ICT教育の充実

生徒一人一台のタブレット導入は年次進行の3年目となり、中学・高校全学年が授業と自宅学習でICTを活用する環境が整った。新型コロナウイルス感染症に伴う自宅待機生徒への措置として、全教室に授業撮影用タブレットが配置され、当該生徒が手元のiPadを使用してライブ授業を受けることができた。

生徒・保護者への連絡では、今年度より導入したクラウド型校務システムBLENDを用いることにより、ペーパーレス化が進行した。授業や学習課題の連絡でもBLENDの他、Google Workspaceの各アプリケーションの他、ロイロノートやClassiなどのクラウドサービスを効果的に使用することで、生徒の学びにICTの活用が浸透した。

マルチメディア教室の生徒用デスクトップ端末を、Windows11搭載のノートPCに更新した結果、情報科や技術家庭科の授業で、生徒の作業効率が向上した。また中学の全教室に固定式電子黒板プロジェクターを設置し、中学・高校すべての教室の授業で、ICTをより効果的に活用する環境を整えた。

さらに教員用ノート PC も Windows11搭載の長時間バッテリー内蔵タイプに更新する準備を行い、新年度からは電源ケーブルがなくても、連続した授業や長時間の会議に対応できるようになる予定である。

(h) 総合学習・総合探究

中学では、学校の日常生活および体育祭や文化祭での自治的活動、また礼拝を含めたキリスト教教育活動その他の諸行事を通して、教育目標である「道徳人、実力人、世界人の育成」の実現のために、総合学習の時間を用いることが出来た。

高校では礼拝で生き方を考えるとともに、キャリアデザイン構築や自分に合った進路選択のためのプログラムを設けて、生徒がそれぞれの進路を拓く力を得ることができるようにした。

③ キャリア教育

生徒が自分の「使命（ベールフ）」について考え発見できる機会を提供するため、明治学院教育ビジョンにおけるキャリア支援会議チームのアクションプランに沿い多様な講師を招き、中学および高校でキャリア講演会を実施した。

時期	対象学年	講演者
4月18日	中3	伊藤 健太郎氏（本校27期生、アニメ・映画声優）
6月29日	中3	藤舎 呂裕氏（邦楽家）
7月4日	中3	おせつときょうた（漫才師）
10月5日	中3	大和 勇介氏（本校48期生、ステージマネージャー・舞台監督）
11月7日	中3	山下 崇氏（アジア学院職員）
11月14日	高1	大谷 貴子氏（全国骨髄バンク推進連絡協議会 前会長）
11月30日	高1	陣内 大蔵氏（牧師、歌手）
12月5日	中3	徳田 悠希氏（本校55期生 “KNOW NUKES TOKYO”）
2月27日	高2	安食 弘幸氏（峰町キリスト教会主任牧師）

④ 進路指導

(a) 現行の「学習プログラム」に基づく、進路指導の定例会議を毎週行い、各学年の指導状況、取り組みについて検討した。

(b) 高校生に「進路の手引き」を改訂、配付した。大学受験指導のため、外部専門業者の分析データを活用して、高2・高3教員向けの出願指導研修および数回に亘って模試結果の分析報告を行った。

⑤ 中高大の連携推進

(a) 明治学院大学系列校特別推薦制度の結果

2022年度は明治学院大学系列校特別推薦制度により129名、高校3年全在籍者の50.5%が明治学院大学に進学した。明治学院大学への近年の進学率は下表の通りで、系列校進学への人気が続いている。

年度	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
明治学院大学進学率	40.2%	31.3%	43.1%	41.5%	47.5%	50.2%	50.5%

(b) 明治学院大学からの教育実習生の受け入れ

本校が受け入れた教育実習生13名のうち、明治学院大学からの教育実習生は文学部2名、社会学部3名の合計5名であった。

(c) 接続教育の充実

1) 推薦進学コースでは「アカデミックリテラシー」の授業による小論文・面接指導を行った。また、2019年度より、この授業内で実施される大学教授の特別講義が「教養原論」として大学入学後に単位認定されることになった。2022年度は推薦進学コースにて102名が大学の単位を取得した。

2) 明治学院大学各学部の入学前教育が行なわれ、入学までの4カ月間、高等教育を受ける準備の時とすることができている。

3) 対象の生徒に対して、6月に「明治学院大学学部学科説明会」、2月には「J.C.バラ・プログラム」を設けて参加を促している。とりわけ、後者は入学前に明治学院大学での生活の一端を体感できる貴重な機会となっており、教職員にとっても、高大接続、一貫教育を推進

する上で有意義な機会である。

- 4) 「明治学院一貫教育宣言」により、一貫教育の中身を充実していくことを確認している。その具体化の為の教育ビジョンプロジェクトチームに参加し、明治学院教育ビジョンの実現に取り組んだ。
- 5) 明治学院教育ビジョンの計画に基づき、8月に高大接続の一環として毎年恒例の TOEFL 講座に9名が参加した。今年度は東村山キャンパスでの開講となった。
- 6) 例年7月に高3推薦進学コースに在籍する生徒を対象に明治学院大学国際センターと連携し留学ガイダンス、留学相談会を実施しているが、2022年度は新型コロナウイルス感染症の影響により実施を見送った。一方で、6月18日(土)と2月4日(土)に明治学院大学国際センター主催の大学生向けオンライン講演会「明治学院卒業生の留学×キャリア 留学経験のある卒業生によるオンライン講演会」に本校の高校生が参加した。6月18日(土)は8名、2月4日(土)は5名の高校生が参加し、留学について具体的に考える良い機会となった。
- 7) 2024年4月より、明治学院大学に新設予定の理系学部(情報数理学部)に進学を希望する本校生徒への対応として、2023年度における高3のカリキュラムを変更(学則も変更)した。

⑥ 行事・課外活動

(a) 生徒会・委員会活動・クラブ活動等

引き続きコロナ禍の影響がある中、可能な範囲で自主的に取り組み、充実した学校生活へと繋がるように指導した。また、修養会(6月)、研修旅行(中学9月、高校1月<6月より延期>)、体育祭(10月)、文化祭(11月)、中学合唱祭(2月)などの様々な行事について、工夫をしながらコロナ禍以前に近い形での実施ができた。

(b) クラブ活動(課外活動)の主な実績

1) 中学校

クラブ名	主な実績
ラグビー部	関東大会出場
将棋部	第11回デイリースポーツ青少年将棋大会 敢闘賞 第18回 U-18将棋スタジアム 個人戦ビギナークラス 優勝
ハンドベル部	TBS こども音楽コンクール全国大会参加
美術部	第67回全日本学生美術展 佳作3点

2) 東村山高校

クラブ名	主な実績
将棋部	第11回デイリースポーツ青少年将棋大会 敢闘賞 全国高等学校将棋新人戦東京都予選女子個人戦 第2位 全国大会出場 全国高等学校将棋新人戦東京都予選女子個人戦 第3位 全国高等学校将棋竜王戦(東京都予選) 第3位
女子テニス部	第46回東京都私立中学高等学校テニス選手権大会 シングルス本戦出場
美術部	第67回全日本学生美術展 団体：奨励賞 個人：推奨1点 特選2点 佳作9点

⑦ グローバル教育

- (a) 2011年度から実施してきた高校3年生の Winter English Program は、3年間の休止期間を経て、2022年度は実施することができた。高校3年生12名(女子10名、男子2名)がアイオワ州 Northwestern College (アメリカ改革派教会の大学)にて1月14日から3週間、大学の寮で生活し、英語とアメリカ文化の授業を受けた。大学の学生との交流、公立高校の訪問や、週末のホームステイを体験し、近隣の博物館や農場見学などアメリカ中西部の歴史、生活についても学ぶ機会があった。
- (b) 中学では、夏休みのプログラムとしてカナダ・バンクーバー近郊のアボッツフォードで2週間のサマーキャンプを実施する予定だったが、新型コロナウイルス感染症の影響により、3年間連続で中止となった。
- (c) また、高校では2学期からベルギー、アメリカから2名の留学生を受け入れた。

⑧ 校地整備

2022年度には、大型工事として、中学棟トイレ改修工事、講堂棟2階天井耐震補強工事およびテニスコート改修工事の3件を実施した。2019年度からの継続案件となっている中学棟トイレ改修工事については、今回の改修工事にて中学棟の全フロア分が完了した。

⑨ 奨学金等、就学支援金制度の充実

- (a) 中学校・東村山高等学校同窓会による中学生への奨学金制度を活用して学業支援を継続した。
- (b) 明治学院のぶどうの木奨学基金の対象者である中学生については、本校の近隣教会等に「ぶどうの木奨学金」の案内を送付し、引き続き本制度の周知に努めた。
- (c) 本校の授業料等軽減制度について、2022年度も対象者の利用促進を図るべく、保護者への案内等を通じて制度の周知を図った。

⑩ 学校評価

- (a) 教職員研修（4月5日・6日、11月9日）

4月は校長より2022年度の方針と課題についての説明、各学年の方針報告の後、中学の観点別学習状況の評価基準と評価方法について協議、新教務システム「BLEND」についての説明会を行い、中高部会を行った。

11月は（株）ベネッセコーポレーションの担当者を招いて、「最新、大学入試の現状と中学学力推移からみた貴校の状況」と題した説明会を行った。その後、副校長より2023年度方針案についての説明を行った。

- (b) 在校生卒業時アンケートの実施
高3生を対象とした在校生アンケートを実施し、今後の改善点を確認した。
- (c) 地域との交流
 - 1) 登校時に通学路で実施した登校指導の時間が、近隣住民との直接対話の機会としても機能した。
 - 2) 生徒の通学に際し、近隣住民からの苦情があり、生徒へ通学路を再確認すると共に、教員が通学路で登校指導をすることにより、生徒の登校状況の改善がみられた。

⑪ 防災・防犯対策の強化

- (a) 火事・地震などを想定した防災訓練を実施した（5月）。東京私立中学高等学校協会第11支部と連携し、災害時の伝達訓練を実施した（10月）。
- (b) 災害等に備えて、不織布マスク、手指消毒薬（アルボナース等）を備蓄している。

⑫ 新型コロナウイルス感染症対策

新型コロナウイルス感染症対策として、以下の対策を継続した。

- (a) サーモグラフィーを3ヶ所に設置し、教職員の出勤時や生徒の登校時の検温を実施した。
- (b) 屋外の仮設手洗い場を継続設置の上、生徒登校時の手洗い指導を徹底した。
- (c) 学年閉鎖・学級閉鎖時におけるオンライン授業や課題の配信を、また、生徒が陽性もしくは濃厚接触者になった場合に、希望者に対して授業のライブ配信の対応を行った。
- (d) 本校関係者（教職員・生徒）の感染状況を保護者・生徒向けに週次で報告した。

⑬ スクールコンプライアンス

- (a) いじめ防止対策推進法に基づく対応
「いじめ防止対策基本方針」に基づき、いじめの早期発見のための「いじめ対策委員会」の定例化、学校ポスト、通報のためのスクールサインなど諸方策を継続して実施した。
- (b) ハラスメント対策委員会の設置
改正労働施策総合推進法（通称、パワハラ防止法）への対応として、ハラスメント防止に関する規則を施行の上、同規則に基づく「ハラスメント対策委員会」を本校内に設置し、運用を開始した。
- (c) 特別支援委員会の設置
2021年に改正障害者差別解消法により合理的配慮の提供の義務化がされたことを受けて、「特別支援委員会」の会議を定例化し、特別な配慮や支援が必要な生徒について情報交換や支援の内容の検討を行っている。
- (d) 改正労働基準法等への対応
2022年度より本校の教員に対する「1年単位の変形労働時間制」を導入し、運用を開始した。

〔生徒の募集計画〕**⑭ 募集対策と入試結果**

- (a) 広報活動
2022年度も新型コロナウイルス感染予防の対応（参加者の完全予約制・定員制、一部別会場でのライブ中継等）をしながら、以下の広報活動を実施した。

行事・イベント名	中学受験向け（小学生対象）	高校受験向け（中学生対象）
学校説明会（来校型）	7日・13回実施、参加：1,651組 6月にクラブ体験・見学会を実施（14クラブ） 11月に授業見学を実施	5日・9回実施、参加：680組 10月にはフライヤーを3万部作成 140中学校・30学習塾を訪問・配布
オープン・キャンパス	実施せず	2回入替制で実施、参加：412組
校内見学	1回1時間程度の校内見学を各回4組ずつで実施、参加：238組	
オンライン個別相談	1回20分程度で実施、参加：15組	
合同相談会	オンライン形式を含め、37回に参加、延べ130名の教職員を動員	

その他の公開行事として、中学体育祭を完全予約制で公開し、63組の見学者があった。へボン祭を完全予約制で公開の上、ミニ説明会を二日間実施、中学向け174名／4回（初日）、189名／4回（二日目）が参加した。

(b) 入試の状況分析

中学入試では、ここ数年間、応募者、受験者共に毎年増加傾向が続いていたが、2023年度入試では前年度比1%増とほぼ前年度並みの応募者数であった。

一方、高校入試では、推薦入試はほぼ昨年度並に推移し、好調が維持された。男子運動クラブ推薦はラグビー部4名、バドミントン部3名、アメリカンフットボール部3名、柔道部1名の合計11名の合格となった。高校一般入試では、安定した応募者数の獲得が引き続き課題である。

(c) 入試結果

1) 中学校

年 度	2021年度				2022年度				2023年度			
	2/1	2/2	2/4	計	2/1	2/2	2/4	計	2/1	2/2	2/4	計
定 員	60	60	20	140	60	60	20	140	60	60	20	140
応募者	485	383	335	1,203	468	354	283	1,105	447	352	316	1,115
受験者	464	268	171	903	456	233	132	821	429	245	163	837
合格者	168	91	15	274	166	88	33	287	161	80	50	291
入学者	69	61	14	144	60	58	26	144	56	49	39	144

2) 東村山高校

年 度	2021年度		2022年度		2023年度	
	推薦	一般	推薦	一般	推薦	一般
入 試						
定 員	50	70	50	70	50	70
応募者	71	169	89	202	88	165
受験者	60	146	73	178	69	151
合格者	60	115	73	96	69	95
新入学者	60	67	73	54	69	62
移行生	133		132		131	
総入学者	260		259		262	

〔その他の特記事項〕

⑮ 卒業生（同窓会員）との紐帯強化

例年、11月3日にへボン祭の東村山同窓会企画として実施してきた「同窓生講演会」および、学校企画である、「同窓生の集まり（36期生の集い）」は、2022年度も中止とした。同窓会からは、高校卒業生に記念万年筆、クラブ活動に対する援助金、および1月9日にオンラインで開催された卒業生の「成人の集い」に祝い金が送られた。加えて、同窓会による中学生を対象とした奨学金制度により、奨学金が給付された。

⑯ 本校専任教員の前倒し採用

「明治学院高等学校、明治学院中学校および明治学院東村山高等学校教諭の定年延長に伴う定年延長期間の勤務条件に関する特別規程」により、64歳、65歳の教員は担任業務を担当しなくてもよいことになった。担任ができる教員を安定的に確保するため、退職する1年前に前倒しで専任教員を募集することとし、2022年度1名（英語科）が入職した。2023年度にも1名（国語科）が入職予定となっている。

〔大学合格者数の実績〕

⑰ 2019～2022年度大学合格者数

現役浪人合計。短大・専門学校合格者は除く。

〔 〕内は一般受験して明治学院大学に合格した数。

(2023年4月1日現在)

主な私立大学合格校	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
明治学院大学 〔一般受験合格者数〕	112 〔3〕	121 〔0〕	126 〔3〕	135 〔3〕
早稲田大学	2	6	4	5
慶應義塾大学	4		2	3
上智大学	8	3	1	2
東京理科大学	7	4	3	3
国際基督教大学	1	2	1	1
明治大学	6	7	6	2
青山学院大学	12	5	7	8
立教大学	8	14	8	9
中央大学	10	14	15	16
法政大学	20	18	22	8
学習院大学	7	11	13	10
日本大学	18	9	20	6
東洋大学	9	13	14	11
成蹊大学	9	7	9	6
成城大学	3	4	7	1
武蔵大学	6	5	10	2
津田塾大学	2	1	1	
東京女子大学	2	3		3
日本女子大学	2	2	1	
芝浦工業大学	11	4	1	
東京農業大学	3	10	5	
東京薬科大学	3	8	1	7
川崎医科大学				1
埼玉医科大学		2		
多摩美術大学	9	2	1	2
武蔵野美術大学	11	5	8	4

国公立大学合格校	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
一橋大学				1
琉球大学				1
横浜国立大学			1	
筑波大学			1	
千葉大学			1	
東京学芸大学	1		1	
鳥根大学			1	
東京都立大学	1	1		
北海道大学		1		
公立諏訪東京理科大学		1		
金沢大学	1			
電気通信大学	1			

第3章 2022年度財務の概要と経年比較（2018年度～2022年度）

1. 財産目録

資産総額	121,033	百万円
1 基本財産	52,054	百万円
2 運用財産	68,978	百万円
負債総額	10,375	百万円
純資産	110,657	百万円

(単位：百万円)

区 分	2022年度末	
資産額		
1 基本財産		
土地	347,072㎡	17,069
建物	148,495㎡	19,708
建物附属設備	1,134件	6,464
構築物	364件	1,159
図書	1,231,145冊	5,712
教具・校具・備品	44,336点	1,625
その他		313
2 運用財産		
現金預金		6,382
その他		62,596
資産総額		121,033
負債額		
1 固定負債		
長期借入金		1,061
退職給与引当金		4,749
長期未払金		10
2 流動負債		
短期借入金		20
その他		4,534
負債総額		10,375
純資産		110,657

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示

2. 貸借対照表

(単位：百万円)

科目	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
資産の部					
固定資産	105,367	108,642	110,508	111,789	114,094
有形固定資産	48,479	49,199	49,771	50,266	51,913
土地	17,069	17,069	17,069	17,069	17,069
建物（含付属設備）	23,284	23,435	22,964	22,944	26,173
構築物	1,565	1,446	1,326	1,209	1,159
教育研究機器備品	962	1,116	1,302	1,229	1,547
管理用機器備品	55	76	69	86	77
図書	5,496	5,508	5,585	5,664	5,712
その他	46	547	1,452	2,063	172
特定資産	56,490	59,074	60,416	61,263	61,956
第2号基本金引当特定資産	14,825	14,995	14,594	14,321	13,818
第3号基本金引当特定資産	9,468	10,468	10,768	11,268	11,768
退職給与引当特定資産	4,929	4,890	4,844	4,782	4,749
国際交流引当特定資産	2	2	2	2	2
チャペルオルガン引当特定資産	11	0	-	-	-
減価償却引当特定資産	23,880	25,332	26,847	27,591	28,215
山岳事故緊急対策積立引当特定資産	11	11	11	11	11
法人基金引当特定資産	3,085	3,081	3,080	3,021	3,019
創立150周年記念寄付引当特定資産	0	-	-	-	-
日本近代音楽館引当特定資産	193	193	184	185	185
その他の引当特定資産	80	97	81	77	184
その他の固定資産	397	368	320	259	224
長期貸付金	48	42	36	24	17
その他	348	325	283	235	207
流動資産	6,721	6,266	6,110	7,144	6,938
現金預金	5,467	5,771	4,854	6,370	6,382
有価証券	500	0	0	0	0
その他	753	494	1,255	774	555
資産の部合計	112,088	114,908	116,618	118,934	121,033

負債の部					
固定負債	5,028	5,246	5,203	5,124	5,820
長期借入金	92	352	351	331	1,061
退職給与引当金	4,929	4,890	4,844	4,782	4,749
長期未払金	7	3	7	11	10
流動負債	4,162	4,181	4,316	4,580	4,554
短期借入金	135	90	1	20	20
前受金	2,490	2,506	2,684	2,741	2,703
その他	1,536	1,584	1,631	1,818	1,830
負債の部合計	9,190	9,428	9,520	9,705	10,375
純資産の部					
基本金	108,661	110,783	112,410	113,995	115,834
第1号基本金	83,124	84,068	85,777	87,086	88,928
第2号基本金	14,825	14,995	14,594	14,321	13,818
第3号基本金	9,468	10,468	10,768	11,268	11,768
第4号基本金	1,242	1,249	1,269	1,318	1,318
繰越収支差額	△ 5,763	△ 5,302	△ 5,312	△ 4,766	△ 5,176
翌年度繰越収支差額	△ 5,763	△ 5,302	△ 5,312	△ 4,766	△ 5,176
純資産の部合計	102,898	105,480	107,098	109,228	110,657
負債及び純資産の部合計	112,088	114,908	116,618	118,934	121,033

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示

◆貸借対照表についての説明

- 貸借対照表：学校法人明治学院の財政状況が健全であるかどうか、また教育・研究のために必要な資産を保有しているかを表している。
- 資産：2022年度末の資産合計は、121,033百万円となり、前年度比2,099百万円（1.7%）増加した。
- 資産の内訳：固定資産は114,094百万円となり、前年度比2,305百万円（2.0%）増加した。その中で、将来の特定の支出に備えるために資金を留保している「特定資産」が前年比693百万円（1.1%）増加した。
流動資産は、6,938百万円となり、前年度比206百万円（2.8%）減少した。
- 負債：2022年度末の負債合計は、10,375百万円となり、前年度比670百万円（6.9%）増加した。
- 借入金：年度末における長期と短期を合わせた借入金残高は1,081百万円となった。また借入金利息として4百万円を支払った。
- 基本金：2022年度末合計は115,834百万円となり、前年度比1,839百万円（1.6%）増加した。
- 純資産の部：学校法人を永続的に維持するために保持しなければならない純資産（基本金+翌年度繰越収支超過額）が、110,657百万円となり、前年度比1,429百万円（1.3%）増加した。

3. 資金収支計算書

(単位：百万円)

科 目	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
収入の部					
学生生徒等納付金収入	15,211	14,995	14,687	14,603	15,229
手数料収入	842	731	708	676	756
寄付金収入	134	168	153	156	125
補助金収入	1,764	1,917	2,305	2,287	2,363
国庫補助金収入	912	1,057	1,450	1,410	1,428
地方公共団体補助金収入	851	859	852	876	934
その他補助金収入	0	0	1	0	0
資産売却収入	8,765	16,881	18,426	10,409	2,644
付随事業・収益事業収入	197	208	132	156	175
受取利息・配当金収入	1,080	1,122	1,172	1,291	1,382
雑収入	557	407	525	718	496
借入金等収入	1	351	0	0	750
前受金収入	2,490	2,506	2,684	2,741	2,703
その他の収入	1,154	1,163	1,453	2,243	2,457
資金収入調整勘定	△ 3,039	△ 2,864	△ 3,149	△ 3,362	△ 3,190
当年度資金収入合計	29,160	37,589	39,100	31,921	25,894
前年度繰越支払資金	5,974	5,467	5,771	4,854	6,370
収入の部合計	35,134	43,057	44,872	36,776	32,265
支出の部					
人件費支出 (内、退職金支出)	9,966 (431)	9,858 (242)	10,130 (463)	10,380 (679)	10,129 (403)
教育研究経費支出	4,462	4,519	5,100	4,699	5,998
管理経費支出	992	1,100	1,048	1,020	1,135
借入金等利息支出	5	2	2	1	4
借入金等返済支出	162	135	91	1	20
施設関係支出	813	1,675	1,807	1,817	2,768
設備関係支出	650	549	555	351	715
資産運用支出	12,739	19,456	20,703	12,216	5,088
その他の支出	687	832	1,359	781	935
資金支出調整勘定	△ 814	△ 844	△ 779	△ 863	△ 912
当年度資金支出合計	29,666	37,285	40,018	30,405	25,883
翌年度繰越支払資金	5,467	5,771	4,854	6,370	6,382
支出の部合計	35,134	43,057	44,872	36,776	32,265

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示

◆資金収支計算書についての説明

- 資金収支計算書：2022年度中の諸活動に対応するすべての資金の収入と支出の内容を明らかにする計算書である。
- 当年度資金収入合計：2022年度は、25,894百万円となり、前年度比6,027百万円（18.8%）減少した。
- 収入の部合計：前年度繰越支払資金6,370百万円を加えた資金収入の部合計は32,265百万円となった。
- 当年度資金支出合計：2022年度の資金支出の合計額は25,883百万円となり、前年度比4,522百万円（14.8%）減少した。
- 翌年度繰越支払資金：収入の部合計と当年度資金支出合計の差額が翌年度繰越支払資金となる。2022年度は6,382百万円の繰越をすることになり、前年度より12百万円増加した。

4. 活動区分資金収支計算書

(単位：百万円)

		科目	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
教育活動による資金収支	収入	学生生徒等納付金収入	15,211	14,995	14,687	14,603	15,229
		手数料収入	842	731	708	676	756
		特別寄付金収入	120	142	134	136	109
		経常費等補助金収入	1,754	1,831	2,117	2,216	2,265
		付随事業収入	197	208	132	156	175
		雑収入	557	407	525	717	496
		教育活動資金収入計	18,684	18,317	18,306	18,506	19,032
	支出	人件費支出	9,966	9,858	10,130	10,380	10,129
		教育研究経費支出	4,462	4,519	5,100	4,699	5,998
		管理経費支出	992	1,100	1,048	1,020	1,135
		教育活動資金支出計	15,421	15,477	16,279	16,099	17,262
差引		3,262	2,840	2,026	2,407	1,770	
	調整勘定等	21	227	42	△ 9	234	
	教育活動資金収支差額	3,283	3,068	2,069	2,398	2,004	
施設整備等活動による資金収支	収入	施設設備寄付金収入	13	25	19	20	15
		施設設備補助金収入	9	86	187	71	97
		第2号基本金引当特定資産取崩収入		410	811	792	1,052
		減価償却引当特定資産取崩収入				26	617
		施設整備等活動資金収入計	23	522	1,018	911	1,783
	支出	施設関係支出	813	1,675	1,807	1,817	2,768
		設備関係支出	650	549	555	351	715
		第2号基本金引当特定資産繰入支出	1,025	581	410	520	550
		減価償却引当特定資産繰入支出	1,352	1,451	1,515	770	1,241
		施設整備等活動資金支出計	3,842	4,257	4,289	3,459	5,275
		差引	△ 3,818	△ 3,734	△ 3,270	△ 2,548	△ 3,492
	調整勘定等	81	△ 76	△ 175	130	0	
	施設整備等活動資金収支差額	△ 3,737	△ 3,811	△ 3,446	△ 2,417	△ 3,491	
	小計(教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)	△ 453	△ 743	△ 1,376	△ 19	△ 1,486	
その他活動による資金収支	収入	借入金等収入	1	351	0	0	750
		有価証券売却収入	8,765	16,881	18,426	10,409	2,644
		その他の資産売却収入		0			
		保証金精算収入		0			
		貸付金回収収入	26	18	17	20	15
		退職給与引当特定資産取崩収入	104	59	96	78	74
		国際交流引当特定資産取崩収入	0	2	0	0	0
		チャペルオルガン引当特定資産取崩収入	4	11	-	-	-
		法人基金引当特定資産取崩収入	2	3	0	59	1
		日本近代音楽館引当特定資産取崩収入			9	0	
		その他の引当特定資産取崩収入	5	3	16	4	3
		創立150周年記念寄付引当特定資産取崩収入	415	-	-	-	-
		立替金回収収入	45	150		1	0
		仮払金精算収入	0	0		0	
		預け金回収収入	15	15	15	520	12
		預り金受入収入	42	15	110	96	
		仮受金受入収入	0	1	0	0	1
	小計	9,429	17,515	18,693	11,189	3,504	
	受取利息・配当金収入	1,080	1,122	1,172	1,291	1,382	
	為替差益	-	-	-	0		
	その他の活動資金収入計	10,509	18,637	19,866	12,482	4,886	
	支出	借入金等返済支出	162	135	91	1	20
		有価証券購入支出	9,265	16,381	18,426	10,409	2,644
		第3号基本金引当特定資産繰入支出	1,025	1,000	300	500	500
		退職給与引当特定資産繰入支出	69	21	50	15	41
		国際交流引当特定資産繰入支出	1	1	0	0	0
		日本近代音楽館引当特定資産繰入支出				1	
		その他の引当特定資産繰入支出		20		0	111
		貸付金支払支出	17	12	9	4	7
		立替金支払支出			0	0	
		仮払金支払支出			0	0	2
		預け金支払支出	15	14	520	13	12
		仮受金支払支出	0	0	6	0	
預り金支払支出		0	0	0	0	43	
小計		10,556	17,587	19,405	10,944	3,383	
借入金等利息支出		5	2	2	1	4	
その他の活動資金支出計		10,562	17,590	19,407	10,945	3,388	
差引	△ 52	1,047	458	1,536	1,498		
	調整勘定等	0	0	0	0	0	
	その他の活動資金収支差額	△ 52	1,048	458	1,536	1,498	
支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)		△ 506	304	△ 917	1,516	11	
前年度繰越支払資金		5,974	5,467	5,771	4,854	6,370	
翌年度繰越支払資金		5,467	5,771	4,854	6,370	6,382	

5. 事業活動収支計算書

(単位：百万円)

		科目	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
教育活動	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	15,211	14,995	14,687	14,603	15,229	
		手数料	842	731	708	676	756	
		寄付金	120	142	134	136	109	
		経常費等補助金	1,754	1,831	2,117	2,216	2,265	
		国庫補助金	912	985	1,270	1,357	1,380	
		地方公共団体補助金	841	845	845	859	885	
		その他補助金			1			
		付随事業収入	197	208	132	156	175	
		雑収入	596	432	545	717	511	
		教育活動収入計	18,723	18,342	18,326	18,507	19,047	
		事業活動支出の部	人件費	9,970	9,844	10,104	10,317	10,110
			(内退職給与引当金繰入額)	(436)	(228)	(437)	(617)	(385)
			教育研究経費	5,736	5,892	6,675	6,327	7,759
			(内減価償却費)	(1,273)	(1,373)	(1,575)	(1,628)	(1,760)
管理経費	1,073		1,177	1,130	1,106	1,224		
(内減価償却費)	(79)		(77)	(82)	(86)	(89)		
徴収不能額	0	0	0	0	0			
教育活動支出計	16,780	16,915	17,910	17,752	19,094			
		教育活動収支差額	1,943	1,426	415	754	△ 46	
教育活動外収支	事業活動収入の部	受取利息・配当金	1,080	1,122	1,172	1,291	1,382	
		その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0	
		教育活動外収入計	1,080	1,122	1,172	1,292	1,382	
	事業活動支出の部	借入金等利息	5	2	2	1	4	
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0	
		教育活動外支出計	5	2	2	1	4	
		教育活動外収支差額	1,074	1,119	1,170	1,291	1,377	
		経常収支差額	3,018	2,546	1,585	2,046	1,331	
特別収支	事業活動収入の部	資産売却差額	0	0	0	0	0	
		その他の特別収入	37	127	223	106	125	
		施設設備国庫補助金	0	72	180	53	47	
		施設地方公共団体補助金	9	14	6	17	49	
		その他	21	40	35	35	27	
		過年度修正額	6					
	特別収入計	37	127	223	106	125		
	事業活動支出の部	資産処分差額	32	91	191	22	27	
		その他の特別支出	0	0	0	0	0	
		特別支出計	32	91	191	22	27	
特別収支差額		5	35	31	84	97		
		基本金組入前当年度収支差額	3,023	2,582	1,617	2,130	1,428	
		基本金組入額合計	△ 2,666	△ 2,121	△ 1,630	△ 1,584	△ 1,838	
		当年度収支差額	357	461	△ 12	546	△ 409	
		前年度繰越収支差額	△ 6,120	△ 5,763	△ 5,302	△ 5,312	△ 4,766	
		基本金取崩額	0	0	2	0	0	
		翌年度繰越収支差額	△ 5,763	△ 5,302	△ 5,312	△ 4,766	△ 5,176	
		事業活動収入計	19,842	19,592	19,721	19,906	20,555	
		事業活動支出計	16,818	17,009	18,104	17,775	19,126	

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示

◆事業活動収支計算書および基本金についての説明

- 学生生徒等納付金：学則や募集要項で所定の額を納入すべき旨が記載されているもので、授業料、入学金、実験実習料、施設設備資金等がある。2022年度は学院全体で15,229百万円となり、前年度比626百万円（4.2%）増加した。
- 手数料：入学検定料が主な収入である。2022年度は756百万円となり、志願者数が増加したため前年度比80百万円（11.8%）増加した。
- 補助金：国庫補助金と地方公共団体補助金が主な収入である。2022年度は学院全体で2,265百万円となり、前年度より49百万円（2.2%）増加した。
- 事業活動収入計：学校法人の収入のうち、負債とならない収入の総額である事業活動収入計は、20,555百万円となり、前年度より649百万円（3.2%）増加した。
- 人件費：2022年度は退職給与引当金繰入額が232百万円減少したことにより、人件費総額は10,110百万円となり、前年度比207百万円（2.0%）減少した。
- 教育研究経費：2022年度の教育研究経費は7,759百万円となり、前年比1,432百万円（22.6%）増加した。
- 事業活動支出計：2022年度の事業活動支出計は19,126百万円となり、前年比1,351百万円（7.6%）増加した。
- 当年度収支差額：2022年度は409百万円の支出超過となり、前年比955百万円減少した。
- 基本金の種類と目的：第1号基本金は、学校の設置や既設の規模の拡大等で教育の用に供されるために取得した固定資産の価額で、2022年度末で88,928百万円（前年度比1,841百万円増）となる。第2号基本金は学校の設置や既設の規模の拡大等で教育の用に供されるために将来取得する固定資産の取得に充てる資産額で、2022年度末で、13,818百万円（前年度比502百万円減）を保有している。第3号基本金は、基金の運用から得られる果実を奨学金等の特定の目的に充てるために、基金として継続的に保持する資産額で、2022年度末には11,768百万円（前年度比500百万円増）を保有している。第4号基本金は、恒常的に保持すべき資金額で「人件費＋教育研究経費＋管理経費＋借入金利息」の合計の1/12（1カ月分）となっている。2022年度末には1,318百万円（前年度比増減なし）を保有している。

6. 財務比率検証

(1) 財務比率について

2022年度決算数値による財務比率は下記のとおりである。

《2022年度事業活動収支計算書関係比率》

比率	名称	指標	2022年度 本学決算	2021年度 大学法人平均	
①	人件費比率	(人件費／経常収入)	▼	49.5%	【46.4%】
②	人件費依存率	(人件費／学生生徒等納付金)	▼	66.4%	【76%】
③	教育研究経費比率	(教育研究経費／経常収入)	△	38.0%	【38.4%】
④	管理経費比率	(管理経費／経常収入)	▼	6.0%	【6.2%】
⑤	基本金組入後収支比率	(事業活動支出／(事業活動収入－基本金組入額))	▼	102.2%	【99.8%】
⑥	学生生徒等納付金比率	(学生生徒等納付金／経常収入)	△	74.5%	【61.1%】

《2022年度貸借対照表関係比率》

比率	名称	指標	2022年度 本学決算	2021年度 大学法人平均	
①	純資産構成比率	(純資産／(総負債＋純資産))	△	91.4%	【86.8%】
②	固定比率	(固定資産／純資産)	▼	103.1%	【100.4%】
③	流動比率	(流動資産／流動負債)	△	152.3%	【229%】
④	負債比率	(総負債／純資産)	▼	9.4%	【15.3%】
⑤	退職給与引当特定資産保有率	(退職給与引当特定資産／退職給与引当金)	△	100.0%	【66.9%】
⑥	基本金比率	(基本金／基本金要組入額)	△	99.8%	【97.5%】

※【 】内は学生数10,000人以上の私立大学法人平均

(日本私立学校振興・共済事業団資料による)

※指標：一般的な評価「△：高い値が良い」「▼：低い値が良い」

(2) 点検・評価および改善目標について

(特長)

- ・事業活動収支計算書関係比率の中で特に、学生生徒等納付金比率が私学事業団大学法人平均を大きく上回っている。このことは私立学校としての本分である授業料等の収入が主体で運営されている、いわば財政的に健全体質である証ともいえる。
- ・12種類の財務比率の中で、7つの比率で私学事業団大学法人平均より優位な数値となっている。

(課題)

- ・教育研究経費比率については、30%台を継続し、前年度(32.0%)よりかなり増加したものの、前年度に引き続き平均値までは到達していない。
- ・学生生徒等納付金比率が高いことの裏返しで、それ以外の収入の比率が低いといえる。学生生徒等納付金以外の事業活動収入項目を模索する必要がある。

(改善目標)

- ・人件費比率は49.5%となり、昨年度より減少したが、私学事業団大学法人平均を上回っていることから、人件費構造の見直しについては今後も検討課題であるため、引き続き抜本的改革の実施を検討する。
- ・教育研究経費比率を向上させ、教育研究に寄与する財政構造となることを目指す。
- ・学生生徒等納付金以外の収入を増やし、より充実した財政基盤の確立を図る。

7. 監事による監査報告書

監事監査報告書

2023年5月26日

学校法人 明治学院
理 事 会 御 中

私たち学校法人明治学院監事 辻 泰一郎、真崎 修は、私立学校法第37条第3項及び寄附行為第23条の定めに従い、2022年4月1日から2023年3月31日までの本法人の業務及び財産の状況並びに理事の業務執行の状況を監査しました。その結果について以下のとおり報告します。

1. 監査の方法

監事は全ての常務理事会、理事会、評議員会に出席し意見を述べたほか、理事長、学院長、学長、高校長、中学・東村山高校長、総務担当理事、財務理事など業務執行理事から業務の報告を聴取するとともに、重要部局の責任者にヒアリングを行いました。それらを通じて学院の現況及び将来の展望（事業計画、中期計画等）、教学全般の状況（入試、就職、明治学院教育ビジョン、補助金の採択状況等）、法人の法務関連の対応状況、並びに財務の状況について把握するように努めました。

監査の実施にあたっては、会計監査人であるEY新日本有限責任監査法人から報告及び重要事項についての説明を受けて意見の交換を行い、またその実査にも立ち会いました。さらに、業務監査を実施し、重要な決裁書類の提出を受けてこれを閲覧し、監査しました。

2. 監査の結果

- (1) 本法人の業務に関しては、適切な手続きを経て行われており、不正の行為がなく、かつ、法令及び寄附行為に違反する重大な事実はなく、建学の精神に立って良質な教育を実践するために適切な運営が行われていると認めます。
- (2) 本法人の財産に関しては、財務報告の適正性を担保する内部統制を整備運用し、それに基づき法人の財産目録、貸借対照表、収支計算書が作成され、また、法人財産の保全及び財産運用の健全性と透明性が、法令及び寄附行為に従っていると認めます。
- (3) 上記を踏まえ理事の業務執行に関しては、適正に行われていると認めます。

3. その他の所見

- (1) 新型コロナウイルス感染症に対し、明治学院の運営に携わる理事・教職員が迅速かつ適切に対応していることを評価します。
- (2) 「情報数理学部」の新設に向けた対応や高校における新校舎竣工に伴う新たな環境での教育を含め、教育活動の更なる充実・発展に取り組むことを望みます。
- (3) 私学法の改正及び認証評価を踏まえた対策を講じ、学院、大学のガバナンスが一層強化されることを期待します。

学校法人明治学院

監 事 辻 泰一郎 ⑩

監 事 真崎 修 ⑩

明治学院広報（別冊）

編集 法人事務室（内線5167）

発行責任者 理事長 山崎 雅男



